

# 翻刻・注解「売油郎独占花魁」淡齋主人記

岡田 袈裟男

## はしがき

近世期、白話小説翻訳の研究において「売油郎独占花魁」（油売りが花魁を独り占めする）は近世の翻訳文学と宋元明代を経過した口語（白話）受容の検証にもっとも適した作品の一つである。それは『醒世恒言』第三巻に置かれたこの物語から三種類の翻訳が生まれたからである。それゆえ日本近世の文人による白話小説翻訳行為の実態が対照的な比較検証を可能にする。

このために、断続的だが三種の翻訳作品のうち、まず全訳に近い「通俗新繡新裁綺史」（1799寛政11）を翻刻<sup>(1)</sup>し、簡略な解題を書いた。つぎに原話の書誌的内容から、翻訳作品と、その影響を受けて成立した数多くの翻案の歴史に及び、また明代における戯曲化について書いた<sup>(2)</sup>。さらにそこで落語「紺屋高尾」を生むきっかけを成したといわれる「赤繩奇縁」（西田維則訳1761宝暦11）について大学院の授業で取り上げて検討してきたが、これもつぎに翻刻を提示するつもりである。それに先立って、ここではもう一つの翻訳作品「通俗古今奇観 卷之四～五」（尾陽書房刊。風月堂孫助）に収録される淡齋主人記「売油郎独占花魁 上・下」を翻刻し、脚注の形式で注解を施した。

つぎに、この翻訳作品についての略解を記しておく、まず訳者淡齋主人については情報が少ない。本書の影印を収める中村幸彦編『近世白話小説翻訳集』第五巻『通俗古今奇観』の長澤孝三氏の解題によると、この人物は佐羽淡齋に比定され、1772（安永1）桐生の絹糸を扱う豪商の家に生まれ、文筆活動にも従事しつつ、1825（文政8）年54歳で没した。翻訳作品の典拠は「文化甲戌仲秋 淡齋主人」の識語のある「古今奇観小序」の記載から、明の抱甕老人が三言二拍から精選した『今古奇観』の一本に拠ったことが知られる。なお、先行文献に青木正児による岩波文庫版があるが、「売油郎独占花魁」における白話小説翻訳の分析的研究の立場から、新たに翻刻し、注解を施した。また、今回顧学頤、青木正児両氏の注に

(1) 「翻刻『通俗繡像新裁綺史』 - 白話小説「売油郎独占花魁」全訳版」立正大学大学院紀要2010.3

(2) 「白話小説『売油郎独占花魁』翻訳とその翻案史をめぐって」立正大学人文科学研究年報2014.3

については最小限の参照にとどめた。いづれ「赤縄奇縁」翻刻後「通俗繡像新裁綺史」と共に近世期の本原話受容の総整理の過程で総合的に検討するつもりである。

なお、校正にあたっては本学文学研究科国文学専攻博士後期課程在学の張海燕氏の助力を得た。記して謝意を表する。

#### 【翻刻底本】

影印『通俗古今奇観』巻之四・巻之五「売油郎独占花魁 上・下」中村幸彦編『通俗白話小説集』第五巻 汲古書院版 1985

#### 【参照文献】

長澤孝三「売油郎独占花魁」解題（中村幸彦編『通俗白話小説集』第五巻 汲古書院 1985）

淡齋主人訳・青木正兒校註『通俗古今奇観 附月下清談』岩波文庫版 岩波書店 1932

馮夢龍編・顧学頤校注『醒世恒言 上』人民文学出版社 1956第1刷 1979版

岡田袈裟男「翻刻『通俗繡像新裁奇史』 - 白話小説「売油郎独占花魁」全訳版」立正大学大学院紀要 2013

岡田袈裟男「白話小説『売油郎独占花魁』翻訳とその翻案史をめぐって」立正大学人文科学研究年報 2013

岡田袈裟男『江戸異言語接触』笠間書院 2006

【用例典拠主要辞典】『漢典』<http://www.2dic.net/> 他

#### 【翻刻凡例】

- 1 基本的には原文に忠実に翻刻する。
- 2 漢字の異体関係文字については現行 MS 社の IME で可能な範囲で復元するが、無い場合には現行の通体に改める。
- 3 ふりがなは（ ）内に、ただし左右に振られる際には（右・左）のように示す。また単独の左ふりがなには（左・）として記入した。
- 4 下線は原語の右に施された固有名詞記号を示す。また人名には単線、地名には二重線だが、いずれも単線とした。ただし、すべての語に付されてはいない。これには法則性がみられず、恣意的なことを考えられる。
- 5 原文には句読点がないので、適宜施した。
- 6 清濁については原則として原本のままとした。
- 7 会話は直接の会話には「」、話中の会話、内言は『』で表した。
- 8 頁の表示は（1オ）のように記し、丁の終了した部分に入れた。

#### 【注解凡例】

- 1 語句は訳者淡齋主人が認定した形態であり、文法的には二語以上であってもそのまま採った。
- 2 採用した語句にはピンインを付し、意味、主として『漢典』に例示された文献の用例を掲げた。
- 3 例示にあたっては、古代漢籍の古例あるいは宋元明代文学作品から必要に応じて同一意味の使用例を挙げた。その際清代以降の作品は一部を除き省略した。なお、類出する作品は略号化した：一拍 - 一刻拍案驚奇、京通 - 京本通俗小説、金瓶 - 金瓶梅、古今 - 古今小説（喻世名言）、警世 - 警世通言、紅樓 - 紅樓夢、西遊 - 西遊記、儒林 - 儒林外史、水滸 - 水滸伝、醒世 - 醒世恒言、二拍 - 二刻拍案驚奇、老残 - 老残遊記等。

通俗古今奇観 卷之四 淡齋主人 著 売油郎独占花魁 上

凡ソ風月機関中<sup>(3)</sup>、<sup>(4)</sup>（イウヂヨマチノカンエウ）ノ論、世話<sup>(5)</sup>（セワ）ニモ云フ通り、「妓（ヂヨラウ）ハ俏（ヲトコノヨイ）ヲ愛シ、媽（クワシヤ）ハ錢ヲ愛ス」ト。ユエニ子弟（ワカモノ）ノ中ニ潘安<sup>(8)</sup>ガ如キ、ヨキ貌アリ。鄧通<sup>(9)</sup>ガ如キ金アレバ上和（カミモヨク）下睦（シモ、ヨク）シ、烟花塞<sup>(10)</sup>（クルワ ノ）大王（オカシラ）鴛鴦会上（アゲヤ ノ）主盟（タイシヤウ）トナル。シカレドモ、帮襯<sup>(12)</sup>トテシメク、リナケレバナラズ。凡ソ小娘<sup>(13)</sup>（ヂヨラウ）タルモノ、一ツノ長（ヨキ）処アレバ、帮襯ヲエテ、十分ニモナル。又短処（ブテウハフ）アル

- (3) 風月 fēng yuè 男女間の情愛事情をいう。前蜀韋莊「多情」詩：“一生風月供惆悵，到处烟花恨別離。”『醒世』本話原文：“俞太尉是七十歲的老人家，風月之事，已是沒分。”『紅樓』第十五回：“（智能）如今長大了，漸知風月。”
- (4) 風月機関 fēng yuè jī guān 妓院（遊郭）のこと。
- (5) 世話 近世語、俗語、世間一般に通用する慣用表現。「世話物」の略。
- (6) クワシヤ 近世語「火車」、<sup>(6)</sup>「香者」、妓楼の女房、妓女（遊女）を監督、指揮する女性。やりてばばあ、<sup>(6)</sup>「花者 やりて、若い者」- 風流志道軒伝（宝暦13）。本話では「鴛者」の表記が多い。「鴛」は「トキ」をいうが、転じて遊郭を開く女性を指す。
- (7) 原話にはこの内容を表す詩が冒頭におかれるが、この翻訳では省略されている。  
年少争誇風月 場中波浪偏多 有錢無貌意難和 有貌無錢不可  
就是有錢有貌 還須着意揣摩 知情識趣倍哥哥 此道誰人賽我  
「若者はいかに持てるかを競い、廓であれこれ問題を起こすことがおおい。仮に金があっても、見栄えの悪いのはなかなか難しく、見栄えが良くても金のないのはだめだ。さらに、金があり、見栄えもよくても、人を慮る気持ちがなければだめだ。もし遊ぶ兄さんがあれこれ心が行き届くほど情が深ければ、競い合えるものなど誰もいやしない」ほどの意。
- (8) 潘安 pān ān（二四七～三〇〇）前漢の人。西晋の代表的文学者の一人。「姿容既好，神情亦佳」と伝えられ、美男の典型とされる。
- (9) 鄧通 dèng tōng 生没不詳。前漢、文帝の寵臣。
- (10) 烟花塞 yān huā sài 1 妓院の意。「塞」原文は「寨」。「烟」は「煙」の異体字。『元曲選』我怕你迷恋烟花，墮你進取之志。2 妓女あるいは芸妓をいう。唐 黄滔『閨怨』詩：“塞上無烟花，寧思妾顏色。”元 作者不詳『貨郎旦』第四折：“只教那媒人往来……早将一个潑賤的烟花娶過來。”『警世』玉堂春落難逢夫：“奶奶是名門宦家之子，奴是烟花，出身微賤。”
- (11) 鴛鴦会 yuān yāng huì 男女同席の宴をオシドリに譬えた表現。男女が共に宴会をすることの譬え。本話原文「常言道：‘妓愛俏，媽愛鈔。’所以子弟行中，有了潘安般貌，鄧通般錢，自然上下和睦，做得烟花寨的大王，鴛鴦会上的主盟」。
- (12) 帮襯（帮衬）bāng chèn 援助。元 曾瑞『留鞋記』第二折：“觀音菩薩……今日一天大事，都在這殿里，你豈可不帮襯着我。”『儒林』第一回：“又虧秦老一力帮襯，製備衣衾棺槨。”
- (13) 小娘 xiǎo niáng 妾の呼称。娼婦の意。初期の白話小説に多く見られるとされ、顧学頊注は妓女。唐 李賀『洛姝真珠』詩：“真珠小娘下青廓，洛苑香風飛綽綽。”唐 元稹『箏』詩：“急揮舞破催飛燕，慢逐歌詞弄小娘。”『醒世』本話原文：“做小娘的，風花雪月，受用已勾，趁這盛名之下，求之者衆，任我揀摺個十分滿意的嫁他，急流勇退，及早回頭，不致受人怠慢。”

時ハ、他<sup>(14)</sup>（カレ）ガタメニ、ソノ喜（コノム）処ヲアハセ、其諱（イヤガル）処ヲイハズ、情ヲ以テ情ヲ度ル時ハ、不<sub>レ</sub>愛ノ理アランヤ。コレヲ帮襯トイフ。風月場中ニハ此（1オ）帮襯ヲ会<sup>(15)</sup>（シヨウチ）スルヲヨロシトス。シカル時ハ貌ナケレドモ貌アルニモマサリ、錢ナケレドモ、錢アルニヒトシ。此ニ付テ話（ハナシ）アリ。

大宋開基<sup>(16)</sup>（ハジメ）ノ皇帝ヨリ七代迄ハ偃（フセ）<sub>レ</sub>武、修<sup>(17)</sup>文、民安ク、国泰カナリ。徽宗皇帝ニ至テ、蔡京<sup>(18)</sup>、高俅<sup>(19)</sup>、楊戩<sup>(20)</sup>、朱勔<sup>(21)</sup>カ徒ニ任シ、大ニ苑囿（ソノ）ヲ興（オコ）シ、専ラ遊楽ヲ務メ、朝政ヲ以テ事トセズ、万民ノ怨ヲ致ス。此時金虜<sup>(22)</sup>強クシテ、コノ虚に乗シ、兵ヲ起シ錦繡<sup>(23)</sup>ノ如キ世界ヲ七零八落<sup>(24)</sup>（サンヘ）ニシテ、直（タバチ）ニ二帝<sup>(25)</sup>、塵（チリ）ヲ蒙リテ、江ヲ度リ、難（ナン）ヲ避（サ）ケ、天下ヲ分テ南北トナシ、ヤウヘニ一隅（スミ）ヲ安ス。

内中（ソノウチニ）一人アリ。<sup>(27)</sup>汴梁城外安楽村ニ居住セリ。姓ハ辛（シン）名ハ善ト云。渾家（ニヨウバウ）阮氏夫妻二人米ヲ売（1ウ）テ度世（ヨワタリ）トナス。此外麦（ムギ）、豆、茶、酒、油、塩、雑貨（モロヘ）モ商フ。家道<sup>(28)</sup>（シンシヤウ）モ相応ナリ。年四十二

(14) 他 tā 白話。第三人称単数。

(15) 会 huì 理解する、了解する意。「できる」の意。

(16) 宋 sòng 趙匡胤（太宗）が五代最後の後周から禅譲されて建国した。歴史上、三番目に「宋」を名乗ることで「趙宋」とも呼ぶ。近世日本の文人はこの呼称を好んだようである。北宋（首都、汴梁）960～1127、南宋（首都、臨安）1127～1276。

(17) 徽宗 huī zōng（趙佶）。第8代皇帝。北宋末期の皇帝。『水滸伝』は徽宗の治世時を舞台とする。芸術に通じ、北宋を代表する芸術家ともいわれる。

(18) 蔡京 cǎi jīng 1047～1126北宋末期、徽宗の時代16年間宰相を務める。独裁的、権力欲の強い人物。白話小説『水滸伝』で梁山泊の好漢たちが打倒対象とした4奸臣の一人。

(19) 高俅 gāo qiú 北宋末期の高級官僚。『水滸伝』で梁山泊の好漢たちが打倒対象とした4奸臣の一人。

(20) 楊戩 yáng jiàn 北宋末期の宦官。『水滸伝』で梁山泊の好漢たちが打倒対象とした4奸臣の一人。

(21) 朱勔 zhū miàn 北宋末期の大臣。

(22) 金 jīn 女真族の国家。1126年靖康の変で宋は敗れた。金は華北一帯を支配。臨安（杭州）に逃げた欽宗の弟趙構（南宋初代皇帝・高宗）は建康（南京）で皇帝の即位宣言して建国。臨安を首都とした南宋が以降、金と並び立つ。

(23) 錦繡 jīn xiù 美麗、美好な事物の譬え。

(24) 七零八落 qī líng bā luò 粉碎される意。同義のことばには乱七八槽 luàn qī bā zāo、雜乱無章 zá luàn wú zhāng、零七八碎 língqī bā suì、支離破碎 zhī lí pò suì など種々の言い方がある。

(25) 徽宗と皇帝位を禅譲された長男欽宗 qīn zōng のこと。靖康の変で徽宗、欽宗は金の俘虜となり、北方に連れ去られた。

(26) 江 jiāng 長江のこと。揚子江は江蘇省の江都から鎮江に至るまでの長江の一部を指す。長江はチベット高原を水源地とし、華中を流れ東シナ海へ注ぐ、全長6300kmをいう。

(27) 汴梁 biàn liáng 現在の開封。北宋の首都。汴京、東京。

ナリテ一女ヲ生ム。名ヲ瑤琴（左・後ニハ美娘ト云）ト云。生得清秀（キレイ）又聰明（左・サトシ）ナリ。七歳ノトキニ村中ノ学問所ヘツカハシ、書ヲ読シムルニ毎日千言ヲ諳（ソラ）ニヨミオボヘ、十歳ノトキニハ詩ヲ作りケリ。閨情ノ一絶、人々伝誦ス。

朱簾寂々下<sub>ニ</sub>金鉤<sub>ヲ</sub> 香鴨沈々冷<sub>カ</sub>也 画楼<sub>ニ</sub>

移<sub>レ</sub>テ 枕<sub>ヲ</sub> 怕<sub>レ</sub> 驚<sub>ク</sub> 鴛<sub>ノ</sub> 並<sub>宿</sub>スルニ 挑<sub>テ</sub> 灯<sub>ヲ</sub> 偏<sub>ニ</sub> 恨<sub>ム</sub> 蕊<sub>ノ</sub> 双<sub>頭</sub>ナルヲ

十二歳ニ至テ琴棋書画（キンキシヨグワ）不<sub>レ</sub>通<sub>ル</sub>処ナシ。別シテ女工ノ一事ハ人々ノ不及所ナリ。此ミナ天生<sup>(30)</sup>ノ伶利<sup>(31)</sup>（キヨウ）ニシテ、教習ノ能スル所ニアラズ。莘善男子ノナキユエニ、ヨキ婿ヲ尋（2オ）ヌルニ、我女子ノ伶利（キヨウ）ナルヲ以テツレ合相応ナル者ヲモトム。コノユエニ、オリへ申シコムモノハアレドモ心ニカナハズ。折フシ金虜サカンニシテ汴梁城ヲ攻ムル事甚タ急ナリ。官軍多シトイヘドモ、宰相和義<sup>(32)</sup>ヲ主トシテ合戦ヲ好マズ。虜勢イヨへ盛ニシテ京城ヲセメ破リ、二帝モ都ヲ移シテコレヲサク。城外ノ百姓ミナへ魂（タマシヒ）ヲ亡ヒ、胆（キモ）ヲ喪シ、家ヲステ命ヲ逃ル。莘善モ渾家<sup>(34)</sup>（ニヨウバウ）阮氏<sup>(35)</sup>ト十二歳ノ女兒ヲ携（タヅサ）ヘテ、一同難ヲ逃レテ包（ツ、ミ）ヲ背負（セオフ）テ走ル。大勢ノ百姓モ、トモへ走ル中、想ハズ官兵ノ打モラサレタル軍勢ドモ、逃<sub>レ</sub>難<sub>ク</sub>ヲ百姓包ヲ背ニ負テ走ヲ見付テ、仮意<sup>(36)</sup>（イツハリテ）（2ウ）呐喊<sup>(37)</sup>（トキノコエ）ヲアゲ、「ソリヤ金虜追來ル」ト呼ホドコソアレ。多クノ百姓アワテ、オメイテ親ハ子ヲステ、子ハ親ヲ不<sub>レ</sub>顧、右往

(28) 家道 jiā dào 「暮らし向き」の意。家庭の命運。宋 蔡條『鉄園山從談』卷四：“兄念家道，死喪殆尽，今手足独有二人。”『紅樓』第九五回：“探春心里明明知道海棠開得怪異，宝玉失的更奇，接連着元妃姐姐薨逝，諒家道不詳，日日愁悶，那有心腸去勸宝玉？”

(29) 女工 nǚ gōng 本話では「裁縫、刺繍」などを指す。

(30) 天生 tiān shēng うまれつきの意。『警世』・白娘子永鎮雷峰塔：“煩小乙官人尋一個媒証，与你共成百年姻眷，不枉天生一對，却不是好！”

(31) 伶利 líng lì 「伶（怜）俐」とも。賢い、聡明の意。「朱子」卷三二：“仁，只似而今重厚底人；知，似今伶俐底人。”『水滸』第四九回：“原来這樂和是一個聰明伶俐的人，諸般樂品，尽皆曉得，学着便会。”

(32) 宰相 zāi xiàng 北宋徽宗時代の宰相は蔡京。青木正兒註は「秦桧」とするが、南宗高宗時代の宰相である。

(33) 「二帝モ都ヲ移シ」註 (25) 参照。

(34) 渾家 hún jiā 白話小説の翻訳では「つま」「かか」「にようぼう」など。『京通』・碾玉観音：“渾家説与丈夫道：“你与我叫住那排軍，我相問則个。”『水滸』：“却才竈辺婦人，便是小人的渾家。”元 李文蔚『燕青博魚』第一折：“渾家王腊梅，元不是我自小里的兒女夫妻。”

(35) 「走」は現代語で「移動する」「歩く」「出る」などの意。註 (44)、(53) 参照。

(36) 仮意 jiǎ yì 故意、いつわりの情意。『古今』・臨安里錢婆留發迹：“婆留仮意向袖中一摸，說道：“在下偶然出来拜一個朋友……不曾帶得甚麼采來。”『紅樓』第二九回：“因你也将真心真意瞞起來，我也將真心真意瞞起來，都只用仮意試探。”

(37) 呐喊 nà hǎn 大声で叫ぶこと。戦場の鬨の声。古例不詳。しかし、近世日本では「俗語解」他の唐話辞典類にみられる。

左往(左・チリヂリ)ニ逃(ニゲ)ハシル。機ニ乗シテ軍兵ドモ搶掠(トリカスメル)コトハカリナシ。モシアタハザルモノハ打倒ス。此時莘氏瑶琴モ乱軍ニ突タフサレ、ヤウへニ爬起来<sup>(38)</sup>(ハヒオキ、タリ)爹(チ、)娘(ハ、)ヲ尋ルニミエズ。乱軍ノ追来ラン事ヲ恐レテ、敢テ不<sub>レ</sub>喚ノガレテ道ノ傍ノ古基(クヅレタルイヘノアト)ノ中ニ、一夜ヲ明シ、天明<sup>(39)</sup>ニ至テ外ニ出テミルニ、但渺々タル沙上ニ屍(カバネ)ミチへタリ。昨日同時ニ難ヲ逃レテ走タルモノハ一人モミエズ。瑶琴<sup>(40)</sup>、爹(チチ)<sup>(41)</sup>娘(ハハ)<sup>(42)</sup>ヲ思念シテ痛哭ヤマズ、尋ント欲スレドモ道路ヲシラズ。只南ヲ望ンデ(3オ)泣々走ル。『約莫<sup>(43)</sup>(オヨソ)二里バカリモ走リタリ』<sup>(44)</sup>ト思フニ腹中飢エ、小キ家ノ一軒アルヲミテ、想ニ『必ず其中ニ人アルベシ。些ノ飯ヲ乞ハン』ト立ヨリテ中ヲミレバ、却是空屋(カライヘ)、ミナミナ逃<sub>レ</sub>難テ逃去ル。瑶琴土墻(ヘイ)ノモトニ哀々ト哭シテ立居タリ。カ、ル処ヘ土墻ノ下ヨリ出来ル人アリ。此人姓ハ「ト」、名ハ「喬」、正ニ是<sup>(45)</sup>善善ガ近隣平生(ヘイゼイ)遊手(ブラモノ)<sup>(46)</sup>不守本分<sup>(47)</sup>(カセギラヒ)ノモノナリ。人スベテコレヲ大郎ト呼ブ。是亦軍兵ニ冲散<sup>(48)</sup>(ツキチラ)サレテ逃ユクニ、啼哭<sup>(49)</sup>ノ声ヲキ、付テ、ヨクへミレハ瑶琴ナリ。瑶琴モ小ヨリ知ル人ナレバ、今日

(38) 爬起来 pá qǐ lái, pá 這う意。qǐ lái 起き上がる意。

(39) 天明 tiān míng 「天亮」。夜が明ける意。唐 杜甫『石壕吏』詩：“天明登前途，独与老翁别。”宋 欧阳修『鶉鴉詞』詩：“紅紗蠟燭愁夜短，綠窓鶉鴉催天明。”明 謝肇淛『五雜俎』天部二：“九日天明時，以片糕搭兒女頭額，更祝曰：愿兒百事俱高。”

(40) 爹 diē 「父」の意。他に「爸 bà」。

(41) 娘 niáng 「母」の意。日本語でいう「むすめ」ではない。

(42) 痛哭 tòng kū 激しく泣く意。晋 乾宝『晋紀総論』：“范曼必為之請死，賈誼必為之痛哭。”明 張居正『婦葬事畢謝恩疏』：“母子相抱，痛哭失声。”

(43) 約莫 yuē mò 副詞およそ。『朱語』卷十八：“天下事無他，只是箇熟与不熟，若只一時恁地約摸得，都不与自家相干，久後皆忘却。”（「摸」=「莫」）明 韓純玉『虞美人』詞：“挑燈約莫黄昏過，猶自薰香坐。”

(44) 『約莫(オヨソ)二里バカリモ走リタリ』。原文は「約莫走了二里之程」で「およそ二里ほども歩いた」意。「走 zǒu」は歩く意で、「走る」は「跑 pǎo」。なお、この場面以外で原文「走」もすべて「走る」と訳している。誤訳と思われる。ちなみに、『新裁綺史』では「約莫(ヲヨソ)二里ハカリモ走了(ハシリ)」で訳語は同じだが、『赤繩』では「ヤウヤウニ走(アユ)ミ着(ツキ)テミレバ」と、意識中に語の意味を正確にとって訳している。註(35)、(53)参照。

(45) 却是 què shì 連語「却+是」。近世日本では『水滸伝』などの章回小説白話常套の一語形としてとらえられている。「但」「但是」「可是」等と同じ。

(46) 遊手 yóu shǒu 正業に就かず、遊び暮らす者の意。

(47) 不守本分 bù shǒu běn fèn 仕事もしないで、遊び暮らす者をいう。「本分」は本人の身分や地位。南朝 陳 徐陵『答諸求官人書』：“所見諸君，多踰本分，猶言太屈，未喻高懷。”『醒世』本話原文：“〔ト喬〕平昔是個遊手游食，不守本分，慣喫白食，用白錢的主兒。”

(48) 冲散 chōng sàn 追い散らす意。『二十四史』・「南齊書」卷四十九・列傳第三十：“冲病死，元嗣、榮伯與冲子孜及長史江夏内史程茂固守。東昏詔贈冲散騎常侍、護軍將軍。”

患難ノ際目ヲ拳レハ親ナシ。近隣ノ人ヲミテ親人同様ナリ。忙（イソギ）涙ヲ収（3ウ）テ起キ来リ、相見エテ問テ云「ト大叔、我父母ヲミタルヤ」。ト喬心ノ中ニ思フ『昨日乱軍ニ包ヲ取ラレ、路用<sup>(50)</sup>トテハ一文モナシ。天、幸ニ此路用ニナルベキヲ我ニアタヘ玉ハル。此シロモノ我宝トナルベシ』。因テ謊（タバカリ）テ云「你ノ父母、你ヲ尋ルニミエズ。好生<sup>(51)</sup>（ハナハダ）痛苦シテ、只今行先へ去ラル。我ニタノミオカル、ハ『モシ我女兒ヲミツケバ、千万タノム。連レ来リタマヘ。連レ来リ玉ハ、厚ク謝セン』」ト。瑶琴コノ聡明トイヘドモ、イカントモナスベキナキ時節、遂ニ全ク不疑、ト大郎ニ随テ走ル。ト喬隨身ノ乾糧<sup>(52)</sup>（コシベンタウ）ヲトリ出シ、瑶琴ニアタヘテクラハシム。了（ヲハリ）テ云フヤウ。「你ノ父母イ（4オ）ハル、ハ、『夜通シ走ル道ナレバ、モシ女子追付ズハ、我ラハ直ニ江ヲ過テ、建康府<sup>(54)</sup>ニ至ルベシ。必ズアトヨリ尋ネ来リ玉ヘ』ト建康府<sup>(54)</sup>ニ至ラハ你ノ父母ニ会スベシ。ソレマデハ我ト、一所ニ行ベシ。我権（カリ）ニ你ヲ女子ト云ベシ。你亦我ヲ父トナスベシ。シカラザレバ我『迷子（マヨヒゴ）ヲ連レユク』トイハル、時ハヨロシカラズ。瑶琴依允<sup>(55)</sup>（シヨウチ）シテ、此ヨリ陸路ハ同歩、水路ハ同舟シテ、ホドナク建康ニ至ル。シカルニ路上聞クニ、建康ノ地モ金ノ軍勢入り満テ、寧息<sup>(56)</sup>（シツカ）ナラズ。遂ニ舟ヲイソガセテ潤州<sup>(57)</sup>ニ至リ、蘇常<sup>(58)</sup>、嘉湖<sup>(59)</sup>ヲ過テ臨安ノ地ニ至リ、シバラク飯店<sup>(60)</sup>（チヤヤ）ニ入テ休息ス。サテ汴京ヨリ（4ウ）臨安<sup>(61)</sup>ニ至テ三千余里。カノ瑶琴ヲツレ来レバト喬ガ路用モスベテ用ヒ尽シ、仕方モナケレバ外蓋（ウ

- (49) 啼哭 tí kū 声を上げて泣く意。『荀子・非相』：“俄則束乎有司而戮乎大市，莫不呼天啼哭。”唐 王建『原上新居』詩之五：“春來梨棗盡，啼哭小兒飢。”
- (50) 路用 lù yòng 原文では「盤纏」、旅費の意。清 蒲松齡『聊齋志異』・王蘭：“王夜与張謀，留二百金作路用，餘尽撰去，款門而付其子。”『岐路燈』第七二回：“外与盤費四千金，以充路用。”
- (51) 好生 hào shēng 副詞、たいへん、はなはだ。甚，很『京通』・錯斬崔寧：“又見家中好生不濟，無心守耐。”『水滸』第四一回：“這兩日聽得劫了法場，好生吃驚。”
- (52) 乾糧 gān liáng 「乾し飯」。乾した携帯食品。漢 王充『論衡』・芸增：“且周殷士卒，皆資乾糧儀和団上戰場，老百姓送乾糧。”乾糧：同「乾糧」。宋 文天祥『至揚州』詩序：“顧馬办乾糧，以備行役。”
- (53) 「夜通シ走ル道ナレバ……」一文の原文は「你爹媽連夜走的。若路上不能相遇……」とある。淡齋主人の「走」理解はこうした例をみても、「赤繩奇縁」翻訳者の西田維則とは異っていたことを示す例である。註（35）、（44）、（53）参照。
- (54) 建康 jiàn kāng 南京の古称。歴代六朝の都。
- (55) 依允 yī yǔn（相手の云うことに）素直に従う、承諾する。『醒世』「三孝廉讓産立高名」：“田大、田二初時不肯，被田三夫婦連連催逼，只得依允。”
- (56) 寧息（宁息）níng xī 安寧、平静をいう。『史記』・秦始皇本紀：“頼宗廟，天下初定，又復立国，是樹兵也，而求其寧息，豈不難哉！”宋 范仲淹『陳乞邠州狀』：“俟三二年間，辺事寧息，攻守有備，儻聖恩未移，用臣未晚。”
- (57) 潤州 rùn zhōu 鎮江市辺の古称。
- (58) 蘇常 sū cháng 江蘇省蘇州、常州の一带。
- (59) 嘉湖 jiā hú 浙江省嘉興、湖州一带。

ハギ)衣服モヌギ、店賃(タナチン)ニ出シ、アマルモノハ瑶琴ガ活貨<sup>(62)</sup>(イケルカラダ)バカリ也。コヽニ西湖<sup>(63)</sup>上(ノホトリノ)烟花<sup>(64)</sup>(クルワ)、王九媽<sup>(65)</sup>ガ家ニ養女(コガヒ)ヲモトムト聞テ、遂ニ王九媽カ家ニ至ル。九媽、瑶琴<sup>(66)</sup>ガ生得標致(モチコミノヨキ)アルヲミテ、五十兩ニ買フ。ト喬、銀子<sup>(67)</sup>ヲ受取テ九媽ニ向テ説ク。「コレ我本(ホン)ノ子ナリ。ヨク仕入ヲタノム」ト云。又瑶琴ニハ「九媽ハ我一家ナリ。シバラク你ヲアヅケオク。我你ノ父母ヲ尋テ再(フタヽビ)来ルベシ」ト云フ。瑶琴モ『コレ実事ナリ』トオモヘリ。王九媽瑶琴ヲ買テ彼ガ着(キ)タル衣服ヲトリ、新シキ衣服ニ(5オ)換へ、奥坐舖へ引入レ、毎日好茶<sup>(68)</sup>、好飯ヲアタへ、好言好語ヲ用テ彼ヲアタヽメケル。瑶琴九媽カ所ニ住(トヽマ)ル事シバラクニナレドモ、ト喬ガ来ヲ待トイヘトモ、帰リ来ラズ。泣々九媽ニ問フ。「ト大叔ナンゾ帰ラザルヤ」。九媽云ク「ナニノト大叔ヲ尋ルゾヤ」。瑶琴云「我ヲアヅケタルト喬ノ事也」。九媽道(イフ)<sup>(70)</sup>「カレハ你ガ爹(チヽ)ナリト云。ソノ通ナルヤ」。瑶琴道(イ)フ「他(カレ)ハ姓ハト。我姓ハ幸」。遂(ツビ)ニ汴梁ヨリ難ヲ逃レテ路ニ迷ヒ、途中爹媽(チヽハヽ)ヲ失ヒト喬ニ逢テ同道シ、臨安ニ来リシ事ヲ一々語りケリ。九媽聞テ云「元来カクノゴトシ。你ハ是タトヘバ足ナキ蟹ノ如シ。我打明テ語ルベシ。那ノト喬(5ウ)你ヲ売テ我家ニアタへ、五

- (60) 飯店 fàn diàn レストラン、食堂。『水滸』第四三回：“〔李逵〕走到巳牌時分，看看肚里又飢又渴，四下里都是山徑小路，不見有一個酒店，飯店。”
- (61) 外蓋 wài gài 「そとぶた」の意。顧学頤『醒世』（人民文学出版社）校註には原文「連身上外蓋衣服」の「外蓋衣服」に「外面的衣服、即長衫一類衣服」とある。
- (62) 活貨 huó huò 瑶琴を商品価値化した表現。『醒世』本話原文“〔ト喬〕身辺藏下些散碎銀兩，都用尽了，連身上外蓋衣服，脱下准了店錢，止剩得幸瑶琴一件活貨，欲行出脱。”
- (63) 西湖 xī hú 杭州にある湖。小説の舞台はこの湖畔に置かれる。モデルに関して、宋元明代の存在については不詳。
- (64) 烟花 yān huā 「烟」は「煙」の異体字。註(10)参照。
- (65) 生得 shēng de 「生まれつき」の意。
- (66) 標致 biāo zhì 優美、秀麗の意。唐 趙璘『因話録・商上』：“君初至金陵，於府主庶人錡坐，屢讚招隱寺標致。”元 作者不詳『鴛鴦被』第一折：“聞知他有個小姐，生的十分標緻。”（緻＝致）『儒林』第二十回：“〔辛小姐〕人物又標致，嫁裝又齊整。”「標致」は「器量よし」は現代語「漂亮 piào liàng」。
- (67) 銀子 yín zi 銀の塊り「銀錠」「馬蹄銀」は宋代から貨幣となった。使用時には重さを量り、価格を決めたとされる。清末期から定額化される。この物語の描写でも宋代を舞台とする様子を伝えている。現代幾らに換算されるかは不詳。なお、金での取引はなかった。
- (68) 好茶 hào chá おいしいお茶、高級茶の意。「好」は良質を意味する。以下「好飯」高級な食事。「好言好語 hào yán hào yǔ」善意のやさしい人を遇することばをいう。
- (69) 大叔 dà shū 父。親と同年輩の男性への尊称。
- (70) 道 dào 「云」に同じ。原文の表現は会話で話すときは「道」である。ただ、訳語としてはほとんど「云」で表しているが、部分によっては原文の動詞を使用している。淡齋訳の背景調査も必要かもしれない。

十両ノ銀子ヲ受取テサリス。我家ハコレ此女郎屋、彩頭<sup>(71)</sup>（オヤマ）<sup>(72)</sup>ニヨツテ度世スルモノナリ。コレ迄モ四五人ノ養女（コガヒ）アリトイヘドモ、並ニスグレタルハ一人モナシ。今你ヲミルニ生得申シ分ノナキモノナレバ、我親子（ミヅカラノコ）ノ如ク、ミソダテ、成長ノ後ニハ你ニヨリテ食（クヒ）モノ、着（キ）モノ一生心マヽニ自由ナルヘシ」トイヘバ、瑠琴聽（キイ）テ、ト喬ニ騙（ダマ）サレタル事ヲ知り、声ヲアゲテ大ニ哭（ナゲ）ク。九媽イロヘニスヽメ、良久シテヤム。此ヨリ、九媽、瑠琴ヲ改メテ王美トス。一家スベテ美娘トヨブ。彼ニ吹モノ、弾モノ、歌舞ヲ教フルニ、尽クヨクセザルハナシ。長成<sup>(73)</sup>（6オ）十四歳ニ至テ嬌艶<sup>(74)</sup>（イロツヤ）常ナラズ。臨安城中豪富ノ公子<sup>(74)</sup>（ワカトノ）ソノ容貌（カタチ）ヲシタヒ、礼物ヲ厚クシテ見エン事ヲ求ム。又ハ彼カ書ヲ善（ヨク）シ、詩ヲ善スルヲ聞テ、コレヲ求ムルモノ日々門ニ満テリ。コノ故ニ大ナル名声ヲ得テ、彼ガ名ノ美娘ヲ呼バス、彼ヲ花魁娘子ト、<sup>(75)</sup>マナヘケリ。王美<sup>(75)</sup>コノ盛名アルニ因テ、十四歳ノ時、就（スナハチ）人アリ来テ梳弄<sup>(76)</sup>（ミヅアゲ）ヲ申シコム者アリ。シカルニツニハ王美ナカヘ梳弄ヲウケガハズ。ニツニハ九媽女兒ヲ金箱トナシ、彼ガウケガハヌヲミテ、彼ガ意ニソムカズ。又過ル事一年。王美年十五ニ成ニケル。門戸中（クルワノウチ）梳弄モ又コノ法アリ。十三歳ニテ梳弄スル（6ウ）ヲ「太早」ト云。又「試花」トモ云。コレ、鴛兒<sup>(77)</sup>（クワシヤ）財ヲ愛シ女兒痛苦ヲカヘリミヌナリ。十四歳ヲ「開花」ト云。此女兒自ラ人道ヲシルノ時ナリ。十五歳ヲ「摘花」ト云。平常（ヘイジヤウ）ノ家ニテ八年小トイヘドモ門戸人家<sup>(78)</sup>（クルワ）ニテハ「過時」（スガシ）ト云。王美十五歳ニ至テモ梳弄ヲナサズ。西湖ノ辺ノ子弟（ワカモノ）イロヘノ歌ヲ作テ王美ヲ笑ヒケリ。九媽コノ由ヲ聞テ家ノ外聞（グワイブン）ヲ失ハンコトヲオソレ、

(71) 彩頭 cǎi tóu 好運の意。原文「我们是門戸人家，靠着粉頭過活」でこの翻訳は「粉頭」の誤まり。

(72) おやま 不詳。

(73) 嬌艶 jiāo yàn 「嬌」かわいいの意、「艶」あでやかなの意。

(74) 公子 gōng zǐ 旧時の諸侯、貴族、官僚などの王子、若様をいう。

(75) 花魁娘子 huā kuí niáng zǐ 「花魁」と「おいらん」の結びつきは意味による異言語間の同定現象。「おいらん」の語源は不詳。また近世遊郭でこのことばを使ったのは江戸吉原のみ。京の島原ほかの遊郭ではふつう「太夫」と呼んだ。

(76) 梳弄 shū nòng 妓女がはじめて客と一夜を共にすること。顧学頤注には「或作『梳籠』」とする。

(77) 鴛兒 bāo 年老いた妓女。鴛兒 bāo ér 鴛母。『醒世』原文：“五鼓時，美娘酒醒，已知鴛兒用計，破了身子。”また妓女をいう。

(78) 門戸 mén hù 妓院をいう。顧学頤注では「門戸人家」を「妓院」とし、関連して「行戸」に「指王九媽以外的其他妓院」とする。宋 周邦彦『瑞龍吟・春景』。詞：“因念箇人痴小，乍窺門戸。”明 黃尊素『説略』：“門戸二字，伎院名也。”明 張四維『双烈記』・就婚：“雖在門戸，素愿從良。”

王美ヲス、メテ客ニツキ合セントスレドモ、王美堅クウケガハズ。説テ道（イフ）。「是非トモニ我ヲ客ニアハセントシ玉ハ、我爹娘（ワカチ、ハ）ニアハセテ爹娘モ合点シタトキハ我モ客ニ逢ベシ」ト云。九媽モ心ノウチ大ニナヤ（7オ）ミ、又彼ヲ捨エス。トヤカウシテシバラク時過ル内ニ金二員外<sup>(79)</sup>ト云大富家アリ。三百兩ノ銀子ヲ出シ、彼ヲ梳弄（ミヅアゲ）セント云。九媽コノ由ヲキ、心ニ一ツノ計（ハカリコト）ヲ生シ、金二員外ト申シ合セ、今度ハ彼ヲ成就セントス。是非トモカヤウカヤウト金二員外モ吞コンテ其日八月十五日ナリ。王美ヲ請テ湖上ニ舟遊セント用意シ、三四人ノ幫間<sup>(80)</sup>（タイコ）ヲ連レ猜拳<sup>(81)</sup>（ケン）或ハ口合（クチヤイ）ナドライヒ、色々ノ興（キヨウ）ヲ催シ、美娘ヲモテ大ニ酔ハシメ、前後モシラヌホドニナシテ、九媽ガ家ノ楼中ヘ至リ、床（トコ）ノ上ニ臥シメケレハ夢中ニ成テ寝入タリ。此時天氣和暖<sup>(82)</sup>夜具ニモ不及、媽兒ミヅカラ彼ガ（7ウ）帯ヲトキ、赤裸ニナシテ、金二員外ヲ呼ビ、心ノマ、ニ事ヲ行ハシム。美娘夢中ニ痛苦ヲ覺エ醒來レハ、モハヤ金二員外ニ勾了<sup>(83)</sup>（左・ハリ）セラレ、五鼓ノ時分<sup>(84)</sup>ニ美娘酒醒ケルニ、已（ステ）ニ鴛兒（クワシヤ）ニ計（ハカリコト）ヲ用テ身ヲケガサル、ヲ知テ自ラ憐ム。紅顏（キリヤウノヨイ）モ薄命（フシアハセ）ノタネトナリ。此強橫<sup>(85)</sup>（ムタイ）ナルコトニアフカト、起來テ解手<sup>(86)</sup>（テウヅ）ニユキ、衣服ヲ穿（キ）、自ラ壁ニ向ヒ、ホロ〜ト涙ヲ流ス。金二員外彼ガ側ヘヨラントスレバ、頭モ顔モカキムシリ、血ノ流ル、ホドニナシニケル。金二員外ハ不興（フキヨウ）ニテ、夜ノ明ルヲマチテ女兒ニ対シテ「我ハカヘル」ト云テ出ケリ。媽兒他（カレ）ヲ留メントス

- (79) 員外 yuán wài 地主など金持ちの尊称。早期の白話に多くみられるとされる。また「員外郎」。『水滸』“本謂正員以外の官員，後世因此類官職可以捐買，故富豪皆称員外”。『京通』・志誠張主管：“一個開線舖的員外張士廉年過六旬，媽媽死後，孑然一身，并無兒女。”元 李行道『灰闌記』第二折：“不是什麼員外，俺們這里完幾貫錢的人，都称他做員外，無過是個土財主，沒品職的。”
- (80) 幫間 たいこもち。原文「幫閑 bāng xián」（閑＝間＝閒）。1 高級官僚や富豪を芸で慰める。元 作者不詳『殺狗勸夫』第四折：“你兩個幫間的賊子好生無礼！”『水滸』第二回：“〔高俅〕却是個幫間的破落戶，沒信行的人。”2 幫閑。『醒世』原文本話：“那些王孫公子來一遍，動不動有幾個幫間，連宵達旦，好不費事。”
- (81) 猜拳 cāi quán 『水滸』第一〇九回：“其中有幾隻船，放於中流。猜拳豁指，大碗個吃酒。”『儒林』第四二回：“六老爺要猜拳，輸家吃酒贏家唱。”
- (82) 和暖 hé nuǎn 温暖で気持ちの良い気候。
- (83) 勾了 gōu le 「勾（够）gòu」足りる意。『西遊』第五回「乱蟠桃大聖偷丹 反天宮諸神捉怪」：“大聖卻拿了些百味八珍，佳殺異品，走入長廊裡面，就著缸，挨著甕，放開量，痛飲一番。吃勾了多時，酩酊醉了。”
- (84) 五鼓ノ時分 申の刻、午前4時前後。
- (85) 強橫 qiáng hèng 理不尽で横暴の意。『宋史』・王審琦伝：“五代以来，諸侯強橫，令宰不得專其事。”
- (86) 解手 jiě shǒu 大小便をする。『京通』・錯斬崔寧：“叙了些寒温，魏生起身去解手。”

レドモ、ハヤ門ヲハシリ出(8オ)タリ。従来(マヘ〜ヨリ)梳弄(ミヅアゲ)シタル客ハ、其朝起タル時ニ媽児部屋へ来テ喜ヲイフ。其外、行戸中<sup>(87)</sup>(クルワノナカマ)スベテ来テ喜ヲノブ。夫ヨリ喜ノ酒宴ヲナシ、那(カ)ノ客多キハ二月少キモ半月或ハ廿日モ留リ遊ブコト也。此金二員外ハ早朝ニ門ヲ走り出ツ。コレ従来イマダアラザル事也。王九媽シキリニケシカラヌトヨビ、衣服ヲ打カケ、楼(ザシキ)へ来テミレバ、美娘床ニ臥シテ満眼涙ヲナガシケル。九媽彼ヲ哄(ダマ)シテ、客ニアハセタクオモヒ、サマ〜ト其体ニテハヨカラヌヨシヲ申シケルニ、美娘ハ只口(クチ)ヲトヂテ居タリ。九媽モ仕方ナク楼ヲ下リケリ。美娘ハ楼上ニ在テ哭(カナ)シム事、一日湯水(ユミヅ)(8ウ)モ、口ヲヌラサズ、此ヨリ病ト云テ、楼ヨリ下(クダ)ラズ、客ニモアハズ。九媽心ヲモミ、彼ヲ打躰(テウチヤク)セントスレバ、彼ガ烈性(ハゲシキシヤウ)シタガハズ、反テ彼ガ心ヲヤフルバカリナラン。又彼カ言フマヽニナサントスレバ、モト彼ニヨリテ錢ヲ賺(マウ)ケントスルコトナラズ。若(モ)シ客ニツキ合(アヒ)セヌ時ハ、就(スナハ)チ百年養ヒオイテモ何ノ用ナシ。トヤカウスル内ニ数日ヲヘタリ。工夫ヲシワヅラフテアル内ニ、忽チ想(オモ)ヒ出ス。兼テ結義妹子<sup>(88)</sup>(キヤウダイブン)ノ劉四媽ハツネ〜往來シテ、能弁(ノウベン)ノモノナリ。美娘ト甚タ話(ハナシ)モアヘリ。彼ヲヤトヒ来テ、異見ヲサセバ気分ヲトリ直(ナホ)スベシト、使ヲツカハシ、劉四媽ヲツレ来(9オ)リ、坐舖ヘ通シ美娘ガ様子ヲハナシケリ。四媽云ク「我(ワレ)ハ是(コレ)女ノ隨何<sup>(89)</sup>、雌(メ)ノ陸賈<sup>(90)</sup>ナリ。タトヘ羅漢<sup>(91)</sup>ノ如キ男嫦娥<sup>(92)</sup>(左・月中ノ女)ノ如キ女タリトモ、這(コノ)事ナラハ成就スベシ」。九媽云ク「モシツノ通りナラバ、我頭ヲ下ケテタノムナリ。茶ヲノンデ、口(クチ)ノカワカヌヤウニシテ、ヨク〜説(ト)キ玉ヘ」。四媽云ク「我ハ此天生ノ副海口<sup>(93)</sup>(シヤベリクチ)。説(トキ)テ、夜ハアクルトモ、ノンドカワカズ」。夫ヨリ四媽ハ茶ヲノミ、後楼(ウラノザシキ)ニ至テミルニ、入口キビシク閉タリ。四媽ホト〜ト戸ヲタヽキテ云ク「姪女(メイブン)ハイカヽシテ在ルゾヤ」。美娘聞知ル『コレ四媽ノ声ナリ』。イソギ戸ヲ明ケ、兩人相見エ、四媽床几ニカヽリテ坐ス。美娘モ傍ニ相(9ウ)陪シテ坐ス。四媽彼ガ桌(シヨク)ノ上ヲミルニ、絹

(87) 行戸中 háng hù zhōng 王九媽以外の妓院を指す。「行戸」については註(78)参照。

(88) 結義 jié yì 契ってむすばれた意。結義妹子は義理の妹の意。

(89) 隨何 suí hé 生没不詳。秦末から漢初期の儒者、外交官。劉邦に仕えた。

(90) 陸賈 lù jiǎ 楚の人。生没不詳。劉邦に仕えた。政治家、外交官。

(91) 羅漢 luó hàn 阿羅漢のこと。仏教における聖者のこと。

(92) 嫦娥 cháng'é 中国神話の人物。月神。

(93) 海口 hǎi kǒu はここでは大口。原文「劉四媽道：老身天生這副海口，便説到明日，還不乾哩」。「副」は量詞で“一〜手套”、“全〜武装”のように「一組」或は「一套」をいう。「副海口」は連語だが、淡齋主人はこれで一語と考えたか。

地（キヌヂ）ニ画ケル美人ノ絵アリ。イマダ彩色ハナサズ。四媽称美シテ云「九媽ハイカナル仕合ニテ、カヤウナル伶俐（キヨウ）ノ女兒（ムスメ）ヲ養ヒ玉フゾ。幾千両ノ金箱、臨安中ヲアマネクタヅネ尽ストモ、此对手（アヒテ）ハヨモアルマジ」。美娘云ク「イカウ御ホメ下サルナ。今日ハ何（ナニ）ノ風ガフイテ嬢娘（ヲバサン）ハ来リ玉フ」。四媽云「老人ヲリヲ来テ、你ヲミントスレドモ、只家務イソカシク、ヒマヲエズ。你ガ梳弄（ミツアゲ）セラルトキ、ヤウ〜今日ヨロコビニ来タリ」。美娘梳弄ノ二字ヲキ、テ面ヲ通紅（マツカ）ニシテ、ウツムイテ返事モセズ。四媽彼ガ羞（ハヅ）ルヲミテ床几ヲ取テ（10オ）ヒキ直シ美娘ガ手ヲ引テ床几ヘアゲ「你殻（カラ）ノ軟（ヤハラカ）ナル鶏ノ蛋（タマゴ）ナラズ。ナンゾ恁（カクノゴト）クオソレハヅル。如何ゾ大金持ノ銀子ヲ賺（マウケ）ンヤ」。美娘云「我銀子ヲ求メテ何ノ用ニセン」。四媽云ク「你銀子ヲ求ムル事ヲ思ハザル時ハ你ノ身ノ上ヨロシカラズ。古キ詞ニモ、『山ニ靠（ヨレ）ハ山ニテ食（クラ）ヒ、水ニ靠（ヨレ）バ水ニテ食（クラ）フ』トイヘリ。九媽ノ家ニ幾人（イクタリ）ノ彩頭（ヂヨラウ）アレトモ那（トレ）一個（ヒトリ）你ガ足モトヘモヨリ付クモノナシ。タトヘバ『一枚ノ瓜畑（ウリバタ）ニ外ノ瓜種（ダネ）ニハナラヌニ、其内一本ニ瓜ノナル種（タネ）アルガ如シ』。九媽你ヲ大事ニスル事、外々ノ粉頭ト同カラズ。你ハ聡明（サトキ）伶俐（キヨウ）ノ人ナリ。ヨク〜此理ヲ思フベシ。（10ウ）我キク你梳弄ノ後、一人ノ客ニモアハズト、コレ何ト云了見（レウケン）ゾヤ。スベテ一軒ノ人々『蚕（カイコ）ノ如ク口（クチ）ヲヒライテ桑葉（クハノハ）ヲノゾム』。做娘的（ウチノカ、）タゞ你ヒトリヲ上物（ジヤウモノ）ニセントスレバ、你モ又丫頭（シモベ・ワカキヂヨラウ）ニワラハル、事ナカレ」。美娘ガ云ク「他ガワラフ。ナンゾ怕（オソ）レンヤ」。四媽云ク「ワラフハコレ小事。你モ門戸人（クルワ）家ノ様子（ヤウス）ヲサトルベシ」。美娘云「ソノ様子怎的（ナンゾヤ）」。四媽云「我門戸人家ハ食モノモ女郎ニヨリ、穿（キル）モノモ女郎ニヨル。サイハヒトヨキ女郎ヲ得ルト、大戸家（ダイジンノイエ）ノ良田（ヨキタ）ト同シ。幼少ヨリ成長シテ梳弄ノ後ニハ田地ヨリ作物ノ成熟スルガ如シ。花利（マウケ）<sup>(99)</sup>日々手ニ入テ自由ヲスル前門（コチラノクチ）ヨ（11オ）リハ来ル客人ヲ迎へ、後門（アチラノクチ）ヨリハカヘル客ヲ送ル。『張郎（ヒトリノヲトコ）ハ米ヲク

(94) イカウ 近世語，程度副詞。

(95) 通紅 tōng hóng 真っ赤の意。

(96) 彩頭 cǎi tóu 註(71)と同様の誤りで「粉頭」である。原文「九阿姐家有幾個粉頭，那一個趕得上你的脚跟来」。

(97) 怎的 zěn de 疑問表現。

(98) 大戸家 dà hù jiā 「資産家」の意。元 作者不詳『看錢奴』第一折：“這人沒錢時無些話，纔的有便說夸，打扮似大戸豪家。”『水滸』第二四回：“那清河縣里有一個大戸人家，有個使女，小名喚做潘金蓮。”

レ、李郎（ヒトリノキヤク）ハ柴ヲクルレ。往ツモトリツ甚タイソガシク、ニギヤカナリ。此姉妹（コガヒノジヨラウ）ノシゴトノ出来タルナリ。美娘羞（ハヂ）テ答テ云「我コノ様ノ事ヲナシエズ」。四媽云「コノ様ノ事ヲナサレバ、你ガ一家ノ中ノ媽々モソナタノ為ヲスルモノナシ。小娘（ヂヨラウ）タルモノ如（モ）シ媽々ノ訓ニシタガハザレバ、動テモ動カレズ、皮鞭ニテ打得テ半死半生。ソノ時ハ你ガ難義モカマハズ。九媽今你ガ聡明（サトキ）生レ付ヲ思ヒ、你ガ恥ンコトヲ惜ミ、你ガ体面（グワイブン）ヲ思フユエニ、九媽我が家ニ来リ。イロ〜話（ハナシ）アリ。你善悪ヲシラスト云モ（11ウ）ノナリ。鳥ノ羽ヲ出シテモ輕キヲシラズ。磨子（ウス）ヲイダカセテモ重キヲシラズ。心中ハナハダヨロコバズ。我ヲ叫（ヨ）ビ、你ヲ歎（ス）メシム。你モシカタ意地（イヂ）ヲトツテ、シタガハザレバ、九媽顔色ヲ損シ、罵（ノ、シ）ル事一ヘン。打コト一ヘン。你天ニ上ラントスレドモ路ナシ。朝夕（アサユフ）頭ヲ打（ウ）タル、時ハ痛苦ニタヘカネテ、客ニマジハラバ、却テ只今迄ハ千金ノシロモノト呼レタルモ、ナグサミモノトナツテ安（ヤス）モノニナラバ、姉妹中ノ笑ハレモノナラズヤ。我異見ニヨラバ、你ステニ井戸ヘ落タルツルベナリ。外ヘ出ル事ハナラス。一向娘の（カ、ノ）モトニ在テ自ラモヨキシゴトヲセヨ。美娘（12オ）云「奴（ワレ）ハコレ好人的女（ヨキヒトノムスメ）誤テ今コノ処ヘ落タリ。モシ嬢娘（ヲバゴ）トリモチテ、ヨキ人ニ身請（ミウケ）ヲナシ玉ハズ、五重ノ塔ヲ造ルニモ勝ルベシ。若シ門ニ倚テヘツラヒ、笑ヒ、カヘルヲ送り来ルヲ迎ヘバ、タマ一死ヲネガフ」。四媽云「我兒身請ハ志アルモノ、事、只是身ウケニ色々アリ」。美娘云「身請ニナニノ不同アルヤ」。四媽云「真従良（左・ミウケ）アリ。仮従良アリ。樂従良アリ。趣好的従良アリ。没奈何の従良アリ。了従良アリ。不了的従良<sup>(102)</sup>アリ。你心ヲシヅメテ我言フ処ヲキケ。先ツ真従良ト云コトハ凡ソ男ノ好キハ必ず女ノ好ヲ待テ佳偶（ヨキツレアヒ）ト云。シカレドモ好事（ヨキコト）ニハジヤマ多シ。トコロ〜是（12ウ）ヲ求テ得ザルナリ。幸ト両方相逢フ。你貪（ムサボ）リ、我愛（アイ）シー方ハトツテ、妻トセントネガヒ、一方ハ嫁シテ婦トナラント思フ。蜚（カヒ

(99) 花利 huā lì 田畑など所得益の意。宋 蘇軾『論積欠六事並乞檢会応詔所論四事一処行下状』：“逐所出花利微細，卒填所欠官錢不足。”

(100) 奴 nú 女性の自称詞。他に「奴家 nú jiā」。かつて女性の自称詞。『敦煌變文集』・破魔變文：“奴家愛着綺羅裳，不勸沉麝自然香。”『京通』・錯斬崔寧：“是奴家要往爹娘家去。”『水滸』第三回：“奴家是東京人氏。”

(101) 只是 zhǐ shì 章回小説の常套語。「只」＋「是」連語。

(102) 従良 cóng liáng 本来古代奴婢が解放され良民になること。転じて娼妓の身請け（遊郭から脱籍して人に嫁すこと）をさす。宋 王闢之『澠水燕談録』・談諺：“子瞻通判錢塘嘗權領州事，新太守至，營妓陳狀，以年老乞出籍従良。”元 李行道『灰闌記』第一折：“我如今棄賤従良，拜辭了這鳴珂巷。”『警世』・杜十娘怒沉百宝箱：“十娘因見鴉兒貪財無義，久有従良之志，又李公子忠厚志誠，甚有心向他。”

コ)ノ蝶ノ死テモハナレヌ。コレヲ真従良ト云フ。仮従良トハ男ハ女郎ヲ愛スレドモ、女郎却テ男ヲキラフテ、他ニ嫁セン事ヲネガハズ。他ノ男ヲダマシテ銀ヲツカハセ、事ノ成就スベキ時ニ至テ、アチラコチラ云テ成就セズ。又一ツニハ癡心(バカナル)男、女郎ノ心中、我ヲイヤガルモ曉得<sup>(103)</sup>(シヨウチ)スレドモ、彼女郎ヲステエズ、金ヲ多クツカヒ、媽兒(アゲヤノカ)ヲ合点サセテ、女郎ハカマハズ。合点スルモセザルモ連レユクユエニ心中不順。コレニヨツテ家ノ作法ヲ守ラズ(13才)小ナルハ錢ヅカヒアラクホシイマヽナリ。大ナルハ奸夫(マヲトコ)ヲモツ人家ニ置クコトナラズ。半年、一年ノ内ニ彼ヲ追出ス。コレ従良(ミウケ)ノ二字ヲトツテ錢ヲマウクル題トナス。個之(コレコレ)ヲ仮従良ト云ナリ。苦従良ト云ハ男ハ小娘(ヂヨラウ)ヲ愛スレドモ小娘カノ男ヲ愛セズ、却テ男ニ勢ヲ以テヨイヤウニセラレ、媽兒(カ)ハ己ガ禍ヲオソルユエ、男ノ云フヤウニナス。小娘ハ是非ナク涙ヲ流シテ従ヒユク。一タビ門ニ入レバ海ノ深キガ如ク、又家法嚴ニシテ頭ヲアグル事モナラズ。半分ノ妾ナリ。半分ハ下女ナリ。ヤウ〜ニ死ヲ忍テ日ヲ度ル。コレヲ苦従良トイフ。イカナルヲ樂従(13ウ)良ト云フ。女郎タルモノ男ヲエラビ、思フノ時、折ヨクモ相逢。個(コ)ノ男、他(カレ)ガ気象(キシヤウ)モオトナシク身上モユルヤカニ家ニアル大娘子<sup>(104)</sup>(オフクロ)善ヲコノミ、女郎ノ家ニ来ラン事ヲネガヒ、他ノ男ニ嫁シテ、安樂ユク〜出身(リツシン)ノ望アリ。コレヲ樂従良ト云。イカナルヲ趣好的従良ト云。女郎タルモノハヤル時節ハ求ムルモノ衆シ、我意ニ十分叶タル男ヲエラビ、ソレニ嫁スル。彼求ムル意、急ナルモノハイヤニナルモ、又速ナリ。コノ故ニイソギテ嫁スルヲ趣好的従良トイフ。何ヲカ没奈何的従良ト云。コレハ女郎タルモノ従良ノ意ハナキニ、或ハ公辺ノ難(ナン)ニアヒテ無理ニ仕方(14才)モナク嫁シ、或ハ借金多クシテ償(ツクナフ)事ナラズ。善悪ニ構(カマヒ)ナク嫁シテ世渡リノ計(ハカリコト)ヲスル。コレヲ没奈何的従良ト云。イカナルヲ了従良ト云。コレハ女郎タルモノダン〜年モタケ、身ニモサマ〜ノ難義ニアヒタル時、男ハ年ハ多ケレドモ行ク先迄モツレ合ノ相応ナラント思フニ嫁スルヲ了従良ト云。イカナルヲ不了的従良ト云。男モ貪リ女郎モ愛シ、火ノ如ク熱クナツタルニ、彼男却<sup>テ</sup>是<sup>レ</sup>一時ノ興ニテ、個(コ)ノ長キツレ合ノ計ハナシ、或ハ男ハ入レントスレドモ尊長(カシラ)アリテ、コレ

(103) 曉得 xiǎo de 分かる。宋 孫光憲『北夢瑣言』卷六：“旧説浙東理難，十分公事，紳相曉得五六，唯劉漢弘曉得七分，其他廉使及三四而已。”『朱語』卷六八：“前輩之説，不欲弃他不是，只自曉得便了。”

(104) 大娘子 dà niáng zǐ 1 正妻。『水滸』三回：“他家大娘子好生利害，将奴赶打出来，不容完聚。”『醒世』本話原文：“做小娘的，正当捩人之際，偶然相交個子弟。見他性情温和，家道富足，又且大娘子樂善，無男無女，指望他日過門，与他生育，就有主母之分。”『儒林』第二六回：“他做小不安本分，人叫他‘新娘’，他就要罵，要人称呼他是‘太太’，被大娘子知道，一頓嘴巴子，赶了出来。”2 既婚女性の尊称。『水滸』第四九回：“樂大娘子驚得半響做声不得。”

ヲユルサズ。或ハ家ニ内儀アリテ妬忌（ネタミ）ツヨク家中イクタビモサワギ立テ、媽家（ヂヨラウヤノカカ）ヲヨビ、(14ウ) 身請ノ金ヲトリカヘシ、又ハ身上タフレテ養フ事モナラズ、追出（オヒイタサレ）タルヲ不了従良ト云」。美娘云「我今従良（ミウケ）セラレン事ヲネガフ。イカンソヨロシカラン」。四媽云「我ソナタニ万全ノ計（ハカリコト）ヲ教ヘン」。美娘云ク「モシヨキ教ヲ蒙ラバ、死ストモ恩ハワスルマジ」。四媽云「従良ノ事ハ入門為浄（クルワノソトノシマヒタリ）。況ヤソナタノ身モスデニ人ニケガサレタリ。就（スナハチ）是（コレ）今宵（ココヒ）人ニ嫁シテモ黄花<sup>(105)</sup>女兒（テイラズノムスメ）トハイハズ。不仕合ニテ此地ニ落タルガ、你ノ運ナレバ仕方モナシ。シバラク此ニオチツイテ彼ヲ幫（テツタフ）テ、金ヲマウケテヤラズバ、幾年過テモ、你ヲ放（ハナ）サンヤ。コヽニーツノ訳（ワケ）アリ。你従良（ウケダサレ）ヲ要（ネガハ）バ個（コノ）ヨキ人柄（15才）ノ者ヲエラムベシ。人ノアシキニハ跟（シタガフ）ベカラズ。タトヘバ你只今一人ノ客ニモ接合（ツキアハ）ズバ、何レガヨキヤラ悪キヤラ知ルベカラズ。你カタ意地（イヂ）ヲトリテ客ニ付合ザル時ハ做娘的（カヽタルモノ）仕方ナケレバ、金ヲ出スモノヲ尋出シ、你ヲ売テ妾トスベシ。此又従良ナレドモ那（カノ）男或ハ年老ノモノ或是顔（カタチ）ミニクキモノ或ハコレ一字モシラス牛方<sup>(106)</sup>ノヤウナモノナルベシ。シカル時ハ你ガ一世ヲアヤマ<sup>タカママ</sup>フズヤ。タトヘバ你ヲ取テ水ノ中ヘ投タラバ、ポイント一声スベシ。傍ノ人モ其音ヲキクベキニ、今イフヤウナ事ニテハ惜ムヘキニアラズヤ。我了見（レウケン）ニハ、却テコヽデ人ノ願ニ（15ウ）モ叶ヒ做娘（カヽ）的ノ云フニマカセ、客ニ付合フ時ハ你ガ人品一通ノモノハ敢テツキ合ズ。其付合モノハ王孫公子（オレキ〜）貴客豪門ニアラザレバ、来ルモノナシ。一ツニハ你若（ワカ）ザカリ風花雪月ノ受用<sup>(107)</sup>（タノシミ）ヲ趣（ノガ）サズ。二来（フタツニ）ハ媽（カ）児ヲ作成<sup>(108)</sup>（トリモチ）テ家事（シンシヤウ）ヲ起（ヨク）シ、三来（ミツニハ）你自ラ金ヲタクハへ、後日ノ心掛ヲナシ、個ノ心ヲシリタルモノモアラハ、我ニ告ヨ。ソノ時我你ノタメニ媒ヲスベシ。做娘的（カヽ）モソノ時ハ你ヲ放ツベシ。コレ両ツナガラ便ナルニアラズヤ」。美娘話ヲキ、テ、ニコ〜ト笑フテ不<sup>(109)</sup>言。四媽スデニ美娘ガ心ノ内ノホドケタルヲミテ便云フ「我申ス処

(105) 黄花 huáng huā 異性と交渉のない女性。「黄花女兒」は手つかずの娘の意。顧学頤注は単に「處女」とする。

(106) 牛方、原文「或是一字不識的村牛」。「村牛 cūn niú」は文盲のこと。

(107) 受用 shòu yòng 享受する、楽しむ意。『法苑珠林』卷十二：“四方僧物，飲食卧具，皆悉不得共同受用。”金 趙胤『留題西溪三絶』：“日落沙禽猶未散，也知受用藕花香。”『紅樓』第十六回：“説我因受用，不肯學習。”

(108) 作成 zuò chéng 助力して成功させる意。『続資治通鑑』・元成宗大徳二年：“詔廉訪司作成人材以備選舉。”明 陸容『菽園雜記』卷九：“季考月試，賞罰明信，弟子多所作成。”

(109) 便 biàn 「スナワチ」と訓読。

ハミナへ為(タメ)ニナル言也)。(16才)你我異見ニツカバ、後日ニ感心スル事アルベシ」ト話(ハナシ)ヲキリテ坐ヲ起(タツ)。王九媽ハ戸外ニ在テ々々聞居タリ。美娘、四媽ヲ説テ外ニ出レハ、テウト九媽一<sup>ママ</sup>出合、満面ハヂヲ含テ身ヲチヅメテ、モトノ部屋ヘ入ニケル。九媽ハ四媽ヲ引テ前ノ坐シキヘ入テ坐ニ付ク。四媽云ク「美娘十分意カタキ処、我左説右説(アチラコチラ)ト説(トキ)エテ、ヤウへ石ノ如キ塊(カタマリ)モトケテ、ヤハラカニ成タリ。コノ時ヲノガサズ、意アル客ヲ引テ来ラバ、他(カレ)必肯(ウケガ)フベシ。ソノ時我モ来テ喜ヲ云ン」。九媽厚ク礼ヲノベ、酒肴ヲソナヘテモテナシ、酔ヲ尽シテカヘリケリ。王美娘ハ劉四媽ガ一席ノ話(ハナシ)ヲ聞テヨリ(16ウ)言フ処理ノ当然ナレバ、ソレヨリ客アレバ心ウチトケテ付合ケルニ客ノ来ル事市ノ如ク、空間<sup>(111)</sup>(ヒマ)トテハ少モナシ。一晚コトニ銀十兩ノ価(アタヒ)ナレドモ你争我奪<sup>(112)</sup>(コチラヘヒキタリ、アチラヘヒキタリ)王九媽若干錢ヲ趣(マウケ)テ喜(ヨロコ)ブ事限ナシ。美娘モ又心意ニ叶ヘル才貌兼全ノ男ヲ揀(エラマ)ント要(ホツ)スレドモ、急切<sup>(113)</sup>ニハ得カタキ事也。正是<sup>(114)</sup>

易<sup>(115)</sup>得無<sup>(115)</sup>價宝 難<sup>(115)</sup>得有<sup>(115)</sup>情郎

是迄ノ話(ハナシ)ノ口(クチ)ヲシバラクサシオイテ、又話ノ口ヲ説キマセウ。<sup>(116)</sup>臨安城清波門裏ニ油屋ノ朱十老ト云人アリ。三年前ヨリ一人ノ小厮<sup>(118)</sup>(コセガレ)ヲモラツテ家ニオキケリ。是モ汴京ヨリ難(ナン)ヲ逃レテ来ルモノナリ。姓ハ秦、名ハ重。母親ハ(17才)早ク喪ヒタリ。父ハ秦良ト云。十三歳ノ時ニ彼ヲ売、ソノ身ハ上天竺ニ遊ンデ香火ヲナス。サテ朱十老年ヨリ跡ヲツグモノモナシ。又渾家(カ、)死シケレバ、秦重ヲ本ノ子ノ如クニ見ソダテケル。朱重ト改名シテ店ニテ売油ノ生理<sup>(119)</sup>(シヤウバイ)ヲ習ハシム。初ハ父子店ニ在

(110) 左説右説 zuǒ shuō yòu shuō ああでもない、こうでもないという意。古例不詳。

(111) 「空間」原文「空間 kòng xián」「空閑」に同。時間のこと。現代語では只「空」。なお、「赤繩奇縁」も「空間」。閑暇の意。「呂氏春秋・仲冬」“命之曰暢月”漢 高誘注：“陰氣在上，民人空閑，無所事作，故命之曰暢月也。”『醒世』・両県令競義婚孤女：“養娘常叫出外辺雑差雜使，不容他一刻空閑。”

(112) 你争我奪 nǐ zhēng wǒ duó 相互の争奪をいう。

(113) 急切 jí qiè 形容詞、切羽つまること。

(114) 正是 zhèng shì 正に～である。

(115) 「易<sup>(115)</sup>得無<sup>(115)</sup>價宝 難<sup>(115)</sup>得有<sup>(115)</sup>情郎」言い伝え、原文、前半部は「易求無價宝」。

(116) 訳文「是迄ノ話ノ口ヲシバラクアツチニオイテ」。原文「話分両頭」。話の展開に使われる章回小説の常套句。

(117) 原文「却説」訳文「話ノ口ヲ説キマセウ」話の展開に使われる章回小説の常套句。

(118) 小厮 xiǎo sī 年少の男の僕。初期白話小説に頻出する人を表す詞の一つ。陶冕『水滸伝訳解』に(第4回44)「小デツチ(丁稚)」。

(119) 生理 shēng lǐ 生活の方法、生存の道、商売。宋 龔明之『中興紀聞』・朱氏盛衰：“朱冲微時以常売為業，後其家稍温，易為藥肆，生理日益進。”『醒世』本話原文：“今見朱小官在店，誰家不来作成。所以生理比前越盛。”

テ甚ヨロシ。後朱十老追追<sup>ママ</sup>二年ヨリ腰痛ニテ、十日ノ中ニ八九日ハ打臥タリ。骨折ワザノナ  
 ラヌユエ、別（ベツ）ニ夥計<sup>(120)</sup>（テダイ）ヲオイテ、刑権ト云フ。店ニ在テ相幫<sup>(121)</sup>（テツタヒ）  
 ケリ。光陰矢ノ如クオボエズ。四年有余過ケレバ、朱重成長シテ十七歳、生レツキ人オアリ。  
 然レトモイマダ妻ヲ求メズ。那ノ朱十老仕女アリ。蘭花ト云テ年（17ウ）已ニ二十歳余也。朱  
 小官人<sup>(122)</sup>ニ心アリテ幾タビモ手ヲ出シケレドモ朱重ハ個ノ老実（リチギ）ノモノナリ。其上蘭  
花生レ付醜（ミニク）ケレバ、朱重ハイヨ〜眼ニモカケズ、此ヲ以テ蘭花ハ朱重ガトリ合  
 スヲミテ、那（カ）ノ夥計（テダイ）ノ刑権ニ心ヲヨセケリ。刑権ハ女トミレバ善惡ニハ構  
 ハズ、男ナレバ老婆<sup>(123)</sup>ガ様子ヲミルト直ニ合点シテ兩人内証デ通ジケリ。オヒ〜深クナツテ  
 却テ朱小官人ノ眼ノサハリニナルヲ立服シテ他ヲ追出サント計リケル。蘭花便チ朱十老ノ面  
 前ニ在テマコトゲニ説（トイ）テ云「小官人（ワカダンナ）イクタビカ我ヲナブリ玉フ。コ  
 レ不老実<sup>(124)</sup>ノ人ナリ」ト。朱十老年ハ老タレドモ（18オ）蘭花ト免レザルノ事アリ。刑権モ又朱  
 老ノ前ニテ云ク「店中金箱ノ銀子タビ〜不足セリ。コレ小官人（ワカダンナ）外ニ在テ賭  
 博ニ負タルナルベシ。ユエニ他（カレ）盗ミ出シ去ルトミエタリ」ト。朱十老初ノホドハ信  
 ゼザル所ニ、二人幾度モ云ユエニ朱十老ウロ〜トシテ就（スナハチ）朱重ヲ呼来リ、責罵  
 ル事一遍。朱重ハ此聰明ノモノ。刑権ト蘭花ガハカラヒ、トハシレドモ、是非ヲ弁<sup>ママ</sup>ゼントス  
 レバ小事ナラズ。万一老者不<sup>ママ</sup>聴（シヨウチセザル）トキハ、枉テ悪人トナルベシ。心ニツ  
 ノ計（ハカリコト）ヲ生シテ、朱十老ニ向テ云フ「店中ノ生意<sup>(125)</sup>（アキナヒ）淡薄（スコシバ  
 カリ）ナリ。二人ニテスルホドノ事ニアラズ。今刑権ニハ店中ノ事ヲ支配サセ、我（18ウ）ハ  
 別ニ荷出シテ油ヲウルベシ。毎日売所ノ代ヲ勘定スル時ハ生意ガ重（ヤヘ）<sup>(126)</sup>ニナラズシテ可

(120) 夥計 huò jì 夥の簡体字は「伙」。店員のこと。

(121) 相幫 xiāng bāng 助ける意。方言。帮助。『清平山堂話本・快嘴李翠蓮記』：“我在家，不多時，**相幫**做些道怎地？”『警世』・蘇知鼎羅衫再合：“那徐用却自有心……故意要来船上**相幫**。”

(122) 小官人 xiǎo guān rén ここでは油屋の若旦那。若主人、若旦那の意。白話小説、戯曲に頻出。一般には（1）金持ちの子弟。宋 王闢之『渑水燕談錄』・名臣：“〔李文定〕公曰‘吾女不妻先生，不過為一小官人妻。先生德高天下，幸婿李氏，榮貴莫大於此。’”『古今』・蔣興哥重會珍珠衫：“〔蔣興哥〕因是隱姓為商，都稱為羅小官人，所以陳大郎更不疑惑。”また（2）若い男や男の子供をいう。『醒世』・李玉英獄中訟冤：“小官人何出此言！老身不過見你路途孤苦，故此相留，有何恩德，却說厚報二字！”

(123) 老婆 lǎo pó 妻、家内、女房の意。宋 吳自牧『夢梁錄』・夜市：“更有叫‘時運來時，買庄田，取**老婆**’賣卦者。”元 作者不詳『陳州糶米』第一折：“我做斗子十多羅，覓些倉米養**老婆**。”『初拍』卷二九：“這老婆穩取是我的了。”『紅樓』第七五回：“賈政因說道：‘一家子一個人，最怕**老婆**。’”

(124) 老実 lǎo shí まじめである、誠実である、正直である。

(125) 生意 shēng yì 商売の意。商売をする。『京通』・錯斬崔寧：“先前讀書，後來看看不濟，却去改業做**生意**。”元 康進之『李逵負荊』第一折：“老漢姓王名林，在這杏花庄居住，開着一個小酒務兒，做些**生意**。”『儒林』第九回：“楊先生雖是**生意**出身，一切帳目，却不肯用心料理。”

(ヨロシ) カルベシ」ト。朱十老キイテユルサントスル意アリケレバ、又邢権申スヤウ。「ソレハ彼(カレ) 内心ハ出商ヲ好マス。畢竟物ヲ偷(ヌス) ミタメ内証ニテ家ヲモチ、又你(オマヘ) ノハヤク彼ガ女房ヲ与ヘサルヲウラミ、此ニ居ル事ヲ不<sub>レ</sub>思外ヘ出テ老婆(カ、) ト做人家哩(ヨワタリ) ヲセン」ト。朱十老キ、テ嘆息シテ云「我ハ彼ヲ以テ実子ノ通りニナシケルニ、彼ハ如此ナル<sup>(127)</sup>歹意(アシキコ、ロ) ナルヤ。天道モ助ケ玉ハヌ」ト云モノナリ。『罷<sup>(128)</sup>罷(ヨセ〜) モト我骨肉ニモナケレバ、遂ニハ、ハナレモノナリ』。三両ノ本手(モトデ) ノ銀ヲトリテ朱重ニア(19オ) タヘ夏冬ノ衣服ト夜具ノ類モアタヘ門ヲ出ス。此又朱<sup>(129)</sup>老ガ好キ所ナリ。朱重ハ料(レウケン) スルニ彼留ザルヲ思ヒ、礼ヲノベテ泣々別レテ立出ル。正是

孝己殺<sub>レ</sub>身<sub>ヲ</sub>因<sub>テ</sub>詢語<sub>一</sub> 申生喪<sub>レ</sub>命<sub>ヲ</sub>為<sub>豊</sub>讒言<sub>一</sub>

親生ノ兒子猶<sub>ヲ</sub>如<sub>シ</sub>此<sub>ノ</sub> 何<sub>ノ</sub>怪<sub>マ</sub>螟蛉受<sub>レ</sub>ト<sub>ヲ</sub>枉冤<sub>マ</sub>

朱重カ親ノ秦良ハ上天竺<sup>(129)</sup>ニテ仏者トナル事、朱重ニモ申(マウシ) キケズ。<sup>(130)</sup>朱重ハ朱十老ガ家ヲ出テ、衆安橋ト云処ニテ、小<sup>(131)</sup>シノ借屋ヲカリ、荷物ヲオロシ錠ヲト、ノヘテ、門口ヲシマ<sup>(131)</sup>シテ長街短巷(アナタコナタ) ヲヘメグリ、父ヲ尋ル事数日ナレドモ、父ノ在所ハシレズ。セン方ナク朱十老ガモトニ四年ノ(19ウ) 間、精ヲ出シ実意ニツトメタルニ、三両ノ銀ヲモラヒテ、ハナニノ本手ニモタラズ、イロ〜思案スルニ、タ、売油<sup>(132)</sup>ノシオボエタル事ナレバ油屋ニ近付多シ。コレヨリ担子<sup>(133)</sup>(ニナヒ) 油ヲ売ル事、穩寔<sup>(134)</sup>(オダヤカ) ナル事也。ソレヨリ売油ノ道具ヲト、ノヘ、アマリノ銀ヲ油房<sup>(135)</sup>(アブラヤ) ヘアツケテ、油ヲトリテウル。カノ油屋モカネテ朱重ガ美義ナルモノトシル。況ヤ彼ハ少年ヨリ店ニアツテ油ヲウリタルニ、那

(126) 重。不詳。

(127) 歹意 dǎi yì 人を害する心、悪意、悪心の意。元 尚仲賢『单鞭奪槊』第二折：“如今把尉遲恭下在牢中也，誣言敬德有二心，生歹意。”

(128) 罷 bà 動詞、辞める。

(129) 上天竺 shàng tiān zhú 杭州の名刹。

(130) 「朱重ニモ申キケズ」 語法が不自然。この一文の原文は「原来秦良上天竺做香火，不曾对兒子説知」。したがって「朱重ニモ申シキカサズ」といったところか。

(131) 長街短巷 cháng jiē duǎn xiàng、大街小巷 dà jiē xiǎo xiàng。『醒世』本話原文：“(朱重) 放下被窩等件，買巨鎖兒鎖了門，便往長街短巷，訪求父親。”

(132) ハナニ、不詳。「花荷」か。商売の初めの商品を差すか。

(133) 担子 dàn zi 責任を負うことの比喩。原文「還去挑個賣油擔子，是個穩足的道路。」宋 朱熹『經筵講義』：“須是認得個仁又将身体験之，方真個知得這担子重，真得是難。”元 曾瑞『哨遍·村居』套曲：“身閑才見公途險，累少方知担子輕。”

(134) 穩寔 wěn shí 穩当である意。

(135) 油房 yóu fáng 油屋のこと。『西游』第九一回：“及至東閣廂，見那兩邊茶坊酒肆喧嘩，米市油房熱鬧。”

ノ夥計（テダイ）ガハカラヒニテ追出サレ、街（マチ）ニ出テ荷油ヲウル事、甚タ不平ナリ。心アルモノハ彼ヲトリモチテ、上油ヲ、シカモ安クシテツカハシケル。朱重ハコノ助ヲエテ、売ルホドニ買（20オ）人モ「朱重ガ油ハ安クシテ、シカモ上油ナリ」ト云テ、外ノ商人ニ比スレバ、格別ヨクウレル事也。毎日少シノ利ヲ得テ、食モノ衣ルモノ儉約ヲシテ、日用ノ道具迄モ用意シテ、少モ油断ハナカリケリ。只一ツノ心掛リハ親ニ逢タクオモフ。シカルニ我ヲ朱重トヨブ時ハ、親ヨリ我ヲ尋ルトキニ便リナシ。遂ニ姓ヲ秦ト改メケル。外ノモノ名アル人々姓ヲ改ルニ、届ケモイリ、帳面ナドモ改ル事ナレドモ、コノ売油ノ男ノ姓ヲ改ルニハ、左様ノコトモナシ。只油桶ノ上ニ大ク秦ノ字ヲ書キ、一面ニハ汴梁ノ二字ヲカキ付、人々ヲシテ一目ミテ、他ハ本姓秦ナル事ヲ（20ウ）シラセンタメナリ。此臨安市上、彼ヲヨシテ秦売油ト云。時ニ二月天気暖ナリ。昭慶寺ト云処、九昼夜ノ功德アリ。油ヲ用ル事多シ。遂ニ油ヲ持テ、寺中ニ至（イタ）リ、油ヲウルニ、那（カ）ノ和尚ノ輩、又キ、シル秦売油ノ油、別人ニ比スレバ大ニ下値ナリ。格別ニトリモチツゞケテウル事九日也。九日メニ秦重油ヲウリシマヒ、空桶ヲ以テ寺ヲ出テミルニ、天気モ晴ヤカニ遊人蟻ノ如クナリ。秦重河ヲメグリテユク。向ヲ望メバ、<sup>(137)</sup>十景塘ニ桃ハ紅、柳ハ緑ナリ。湖上ニハ屋形舟往来シ内ニハ管絃ヲ催シ、ニギヤカナル事言（コトバ）ニモツクサレズ。身モツカレタレハ、又昭慶寺ノ右ノ（21オ）側ニ広場ノアルヲミテ荷物ヲ下シ、石上ニ坐シテ暫ク足ヲヤスメテ傍ヲミルニ、周リニハキレイナル籬（マガキ）ヲカマヘ、内ニハイロ〜ノ植木アリ。中ヨリ巾ヲキタルモノ一人出ツ。ソレヲ送りテ一人ノ女、門マテ来ル。両方辞義ヲシテ、女ハ内ヘ入ル。秦重ヨク〜ミレバ此女容儀美麗目イマダミザル所ナリ。只アキレハテタルバカリナリ。秦重コノ老実（リチギ）ノ人、烟火（イウヂヨ）ノアルヲシラズ。心中疑惑シテ何トモシレズトヤカウ思フ内ニ、門ヨリ走来ル中年ノ媽媽（カカ）一人ノ丫鬟（シモヤンナ）ヲツレ門外ヲミマハス。媽媽々一目ミテ油桶ヲミ付テ云フ「正ニ油ヲ買ント思ヘバ、テウドヨシ。油（21ウ）売ココヘ来ル。ナンゾ少シ買ハザル」。丫鬟油瓶ヲトリ出シ油売ノモトヘ来テ油売トヨベハ秦重答ヘテ云。「今ハ油ヲ売切タリ。媽媽モシ油ノ御用ナラバ、我明日持来ラン」ト、此丫鬟モカネテ秦重ヲシリタレバ、媽媽々ニ対シテ云「彼油ウリノ姓ハ秦ナリ」トイヘバ、媽媽々モ又キ、及タリ。「彼ハ実体ノモノ也」ト秦重ヲ呼テ申シキカセテ云「我家毎日油ヲ求ム。你モシウケアフテ持来ラバ、你ヲ得意トセン」。秦重ガ云「媽媽トリ成玉ハゞ誤ル事ハアラシ」ト媽媽ママキイテ丫鬟ト内ニ入ル。秦重心ノ内想フ『コノ媽媽々ハ何モノカシラズ。我毎日他（カレ）ガ家ニ至テ油ヲウリ、他（カレ）ガ利（22オ）ヲトル事ハサシオイテ、那ノ女娘ヲ飽マテミタラハ是生前ノ福

(136) 昭慶寺 zhāo qīng sì 杭州の寺院の一つ。

(137) 十景塘 shí jǐng táng 杭州の名所。

分ナリ』ト、荷ヲモチテ起ントスルニ、二人ノ轎夫<sup>(138)</sup>（カゴカキ）轎子（カゴ）ヲカキ来ル。跡ヨリ二人ノ小厮（コモノ）飛ガ如クニ走り来ル。其門口ニ至テ轎子ヲ下シ、那（カノ）小厮内へ進ミテ去ル。秦重云ク「コレ又アヤシ、何人ヲ迎ヘルヤ」。シバラクアリテ二人ノ丫鬟<sup>(139)</sup>（シモランナ）一人（ヒトリ）ハ毛氈<sup>(140)</sup>ヲカゝへ、一人ハ攢花<sup>(139)</sup>ノ扨匣<sup>(140)</sup>ヲモチ来リ、轎夫ニワタシオク。那ノ両個ノ小厮ト一人ハ琴ヲトリ一人ハ手卷<sup>(141)</sup>ヲトル。腕ノ上ニハ玉筩<sup>(142)</sup>ヲカケ居タリ。サテ、初ノ女娘出来リ、轎子ニノル。轎夫、旧路（モトノミチ）ヲサシテユク。丫鬟<sup>(143)</sup>モ小厮モ轎子（カゴ）ニツイテユク。秦重トクトミ（22ウ）テイヨ〜疑ヒ油桶ヲニナフテ、ソロソロ歩ミ、只見ル臨河ノホトリ、一軒ノ酒店アリ。秦重ツネニハ酒ヲノマズ。今日コノ女娘ヲミテ心ウレシク、又気モダへ、荷物ヲ下シ、酒店へ立ヨリ、一ツノ床几ニ腰ヲカケル。酒保<sup>(145)</sup>（サケウリ）問テ云ク「客人又外ノ客ト酒ヲ呑玉フカ、又ハヒトリ呑タマフヤ」。秦重云「ヨキ酒アラハ、トリ来レ。ヒトリ三杯呑ベン<sup>(146)</sup>。サカナモアラハモチ来レ」。酒保酒ヲモチ来ル。秦重問テ云ク「カノ金漆籬<sup>(146)</sup>ノ門ノ内ナルヤシキハ誰人ノ家ゾヤ」。酒保云「コレハ齊衙内<sup>(147)</sup>ノ花

(138) 轎 jiào 人を乗せる駕籠。「肩輿」ともいう。轎子 - 駕籠、轎車、花轎。轎夫 - 駕籠かき。

(139) 攢花 cuán huā 花模様を縫いとりすること。『紅樓夢』第三回：“頭上戴著束髮嵌宝紫金冠，齊眉勒著二龍戲珠金抹額；一件二色金百蝶穿花大紅箭袖，束著五彩絲攢花結長穗宮條，外罩石青起花八团倭緞粉底小朝靴。”

(140) 扨匣 bài xiá 贈答品を入れる小箱。『二拍』卷三：“此病惟有前門棋盤街定神丸一服立效，恰好扨匣中帶得在此。”明 王驥德『題紅記』・金水還題：“書童，你另拾一片紅葉，取我扨帖匣里筆硯過來，待我也題詩一聯，回他人去。”

(141) 手卷 shǒu juǎn 巻軸のこと。元 紀君祥『趙氏孤兒』第四折：“我如今將從前屈死的忠臣良將，画成一個手卷。”明 沈德符『野獲編補遺』・内閣・偽画致禍：“時伝聞有『清明上河図』手卷，宋張叔端画，在故相王文恪胄君家。”

(142) 玉筩 yù shēng 玉で細工した筩。

(143) 女娘 nǚ niáng 婦人の通称。

(144) 丫鬟 yā huán 小間使い、女中のこと。宋 洪邁『夷堅三志己』・徐五秀才：“一青衣丫鬟，音韻楚楚。”元 王実甫『西廂記』第五本第四折：“我只見丫鬟使数都厮覷，莫不我身辺有甚事故？”『紅樓』第七回：“二人忙住了棋，都欠身道謝，命丫鬟們收了。”

(145) 酒保 jiǔ bǎo 飲み屋の手代。『鶻冠子』・天則：“酒保先貴食者。”陸佃 解：“酒保，貨酒者也。”唐 韓偓『欲明』詩：“岳僧互乞新詩去，酒保頻徵旧債来。”『水滸』第二九回：“一個当頭の酒保過來，看着武松道：‘客人要打多少酒’。”

(146) 金漆籬 jīn qī lí 「金漆 jīn qī」金州（旅順、大連の旧称）産の漆のこと。「籬」は竹や葦などで作った垣。『元史』・礼楽志五：“次四隊，男子一人，冠金漆弁冠，服緋袍，涂金帶，執笏。”宋 蘇轍『筠州聖寿院法堂記』：“又為聡治其法堂，皆極壯麗，凡材斲金漆皆具於智訥。”『本草綱目』・木二・漆：“以金州者為佳，故世称金漆。”

(147) 衙内 yá nèi 官僚の子弟。宮廷の警護に就いた。顧学頤注では「宋元時代於是称呼貴家子弟為衙内」とする。「牙内」「牙」が訛り「衙」になったといわれる。『水滸』第七回：“恰待下拳時，認的是本管高太尉螟蛉之子高衙内。”『初拍』卷二三：“保正道：‘這等是衙内了。請問當時乳名，可記得麼？’”

園ナリ。今ハ王九媽スマヒヲナス。秦重云「只今ミレバ轎子ニノリ来アリ。コレハ何人ゾ」。酒(23オ)保云「コレハ評判ノ高イ粉頭<sup>(148)</sup>(オヤマ)、名ヲ王美娘ト云。又呼テ花魁娘子ト云。元ハ汴京ノ人ナルガ、売ラレテ此ニ来ル。歌舞、吹モノ、彈モノ、琴棋書画ミナへクハシク、ヨクナセリ。彼ト往来(ツキアフ)モノハスベテ大頭兒<sup>(149)</sup>(オホアタマ)十兩ノ光ルモノヲ出シ、纔ニ一夜ヲ遊ブナリ。小可<sup>(150)</sup>(コマカ)ナルモノハ彼ニ近ク事ナラズ。初ハ湧金門<sup>(151)</sup>外ニ往ケルガ、家ノセマキニ、因テ齊舎人彼ト親シキユエニ、半年マヘ、コノ花園ヲ借シテ居ラシム。秦重キク「彼ハコレ汴梁ノ人」。同シ旧里(フルサト)ノ念ニ、フト心中イロへノ様子アリ。数杯ノ酒ヲノミ、錢ヲ出シ油桶ヲ荷ヒ、一路的肚中打稿道(ミチスガラ、コ、ロノウチオモフヤウ)<sup>(152)</sup>『世間ニコノヤウノ美シキ女子(23ウ)娼家(クルワ)ニ落テアル事ヲシムベシ』。又自ラ笑テ云『娼家ニオチザレバ、吾ガ如キモノミル事ナルマイ』。又痴想(バカナルオモヒ)ヲ起コシテ云『人ハ一生草ハ一秋。モシコノ様ナル美人ヲカ、へ、一夜寝タル時ハ死シテモヨシ』。又云『我(ワレ)荷(ニナヒ)モノシテ世ヲワタル。纔ニ毎日ハシタ錢ヲトル。ナンゾ此非分ノ事ヲナサンヤ。タトヘバ癩蝦蟆(カツタイカハヅ)ノドブノ内ニ居テ、天ヲ走ル鳥ノ肉ヲ食タク思フモ同ジ事。何ゾ口(クチ)ヘ入事アラズ』<sup>(153)</sup>。又思フ『彼ニ交ル者ハ王子公孫。我油売ノモノ。金アリタリトモ、彼ナカへ我ニハウルマジ』。又云『我キクニ鴛兒(クワシヤ)ハ專一(センイチニ)錢ヲホシガル。タトヘバコノ乞子<sup>(154)</sup>ニテモ金サヘアレ(24オ)バ、彼ニ接(マジハ)ル事ヲ得ナリ。何ソ況ヤ我ハコレ青々白々ノ人ナレバ、モシ金アラバ彼ガ接セザルヲオソレンヤ。只是コ、ニアル金コレバカリナリ』。道々(ミチへ)自ラ笑ヒ自ラ語り、人ハイヘ天地ノ間ニ此馬鹿(ハカ)モノアリ。本手纔(ワヅカ)

(148) 粉頭 fěn tóu 妓女のこと。元 馬致遠『青衫淚』第一折：“経板似粉頭排日喚，落葉似官身吊名差。”『警世』・玉堂春落難逢夫：“他家里還有一個粉頭，排行三姐，号玉堂春，有十二分顏色。”『紅樓』第六五回：“你們哥兒倆，拿着我們姊妹兩個權當粉頭來取樂兒，你們就打錯算盤了。”

(149) 大頭兒 dà tóu 大人物。初期白話の表れとする。

(150) 小可 xiǎo kě 自称、謙遜の名乗り。初期白話に多く見られるとされる。

(151) 湧金門 yǒng jīn mén 西湖の辺にある古湧金門、湧金門遺址。

(152) 「一路的肚中打稿道」の振り仮名(ミチスガラ、コ、ロノウチオモフヤウ)はこの句の翻訳。原文の句文をそのまま引いて、翻訳内容を示すことが時折見られる。このことは『赤繩奇縁』『新裁綺史』も同じ。『新裁綺史』はこの傾向が特に顕著である。

(153) この箇所原文は「又想一回道：『呸！我終日挑這油擔子，不過日進分文，怎麼想這等非分之事！正是“癩蝦蟆在陰溝裏想著天鵝肉喫，如何到口！』」で、何かものを得るのに不可能であることの譬え。『儒林』第三回：“你自己只覺得中了一個相公，就‘癩蛤蟆想吃天鵝肉’來！”亦作“癩蛤蟆想吃天鵝肉。”『紅樓』第十一回：“‘癩蛤蟆想吃天鵝肉’，沒人倫的混賬東西，起這樣念頭，叫他不得好死！”

(154) 乞子 qǐ zǐ 「秦重」の謙遜した自称表現。

ニ三両ノ小商人却テ十両ノ銀子ヲ以テ名妓ヲ嫖<sup>(155)</sup>（カハ）ントスル。是夢中ナラズヤ。古ヨリ云「志アルモノハ事ナル」ト彼千想万想シテ、一ツノ計ヲ想ヒ出シ、『明日ヨリ初トシ毎日元手ヲトツテ除（ノ）ケ、アマリアルヲ積ミアゲバ、一日ニ一分ヲツメバ、一年ニ三両六匁ノ数、三年ヲ積テ此事ナラン。モシ二分ヲ積ム時ハ一年半ニシテ成就スベシ。再少シ（24ウ）ノ余分ヲツマバ、一年少シ余ニテナルベシ』トサマへノ思慮スル内ニ、オボエス吾家ニ帰り、内へ入途中イロへノ思ニ飯モ進マズ、床ニ入テモ、カノ美人ニ意引カカリ眠ル事モナク、寝<sup>マ</sup>反リバカリシテ夜ヲ明シケル。ヤウへニ夜モ明ケレバ起上リ、油荷ヲコシラへ、朝飯ヲクラヒ油ヲ荷テ、九媽ガ家ニ至リ、内ニハ入ラズ外ニ立テ内ノヤウスヲウカガヒケリ。九媽ヤウへ起タル処ニテ鴉兒ヲヨンデ菜ノモノヲ買フ。秦重ハ九媽ガ声ヲキ、シリタレバ、「王媽々」トヨベハ、媽々コレヲミレバ秦重也。笑テ云「実義ノ人ナリ。約束ヲタガヘズ、ヨク来タリ」ト云テ、瓶（25オ）ヲ出セバ、計テワタス。重サ五斤余アリ。定リノ代ヲ払へバ、秦重ウケトル。九媽云「コノ油、吾家二日ノ入用ホド也。你隔日ニ持来ルベシ。我外ノ油ハ買ハジ」。秦重応ジテ油荷ヲモチ出ス。只恨花魁娘子ヲミザル事ヲ。『シカシ我ヲトリモツモノモアレバ、一度メニミズト二度ニミルベシ。二度メニミズト其次ニミルベシ』。王九媽ガ一軒ヲタノミニ、ハルへノ道ヲ持テ来リケリ。コレ生意（アキナヒ）ノ為バカリニモアラズ。コレ昭慶寺ハ順路ナレバ也。今日ニテハ寺中ニ法事モナケレバ、油モイラズ。サレドモ我油ヲモツテユク時ハ、彼寺ノ和尚トリモツテケレル時ハヨシ。秦重（25ウ）油ヲモチテユク。時ニ寺ノ和尚モ秦売油ヲ想フ。折フシ来タリ。各彼ガ油ヲカヒケリ。秦重寺中ノ僧ト各約束シテ隔日ニ油ヲモチ来ル。此日ハコレ双口<sup>(157)</sup>（チャウノヒ）此ヨリ始トシテ、単日<sup>(158)</sup>（ハンノヒ）ニハ秦重別（ベツ）ノ街道（カイダウ）ヨリ買売<sup>マ</sup>ヲナシケリ。双日ハ錢塘門<sup>(159)</sup>ヨリユキ王九媽ガ家ニ至リ、油ヲウルヲ以テ名トスレドモ、花魁娘子ヲミンガ為ナリ。或ハミル日アリ。又ハミサル日モアリ。ミル時ハ喜ミザル時ハ恨、正是

天長地久有<sup>マ</sup>時<sup>マ</sup>尽<sup>ク</sup> 此<sup>ノ</sup>恨<sup>ミ</sup>此<sup>ノ</sup>情<sup>無</sup> 尽<sup>ル</sup>期<sup>ナ</sup>

秦重、九媽ガ家ニ至ル事タビへナレバ、家中人々知ラヌモノナシ。時光<sup>(160)</sup>迅速ニシテ、オボエズ一年余モスグル時（26オ）今日ハ三分ノ銀アマリ、明日ハ二分ノ銀アマリ、或ハ少キモ一分バカリツ、積リへテ湊得<sup>(161)</sup>（アツメエテ）一包トナシ、此一包、又重（カサナ）リテ大包

(155) 嫖 piào 娼妓を弄ぶこと。

(156) 斤 jin 量目の単位。次頁14行目に「十六両乃（スナハ）チ一斤ノ目方（メカタ）アリ」とある。原文は「剛剛—十六両之数、上秤便是一斤」。

(157) 「チャウノヒ」の「チャウ=長」賭博用語。「双日」の「双」は偶数日のこと。

(158) 「ハンノヒ」の「ハン=半」賭博用語。「単日」の「単」は奇数日のこと。

(159) 錢塘門 qián táng mén 杭州の古跡。

(160) 時光 shí guāng 時間。他にも「時期」「生活」の意。

トナル。自身モ何程アハヤラン、シラズ。又此単日大爾ニアヒ、秦重外ニ出テ商ヲセズ。コノ大包ノ銀子ヲミテ、心中自ラ歡喜シ、今日幸トヒマナレバ、天平<sup>(162)</sup>（ハカリ）ヲカリテ目方ヲミルベシト傘ヲサシテ直（スク）ニ向フノ両ガヘ屋ニ至リテ、「天平ヲ借、銀ヲカケン」ト云フ。那（カノ）両替屋ノ小輩、目極メテ浅シ。『売油郎ノ銀、何ホドモアルマジ』ト思ヒ、小キ秤ヲトリ出シテアタヘケルニ、秦重包ヲ取出開ク時ニ、<sup>(163)</sup>是散碎ノ銀子。大ナルハ少ク、小キモノ多シ（26ウ）小輩想テ云フ『人、顔ヲ以テ相スベカラス。海水斗ヲ以テ量ルヘカラズ』。忙（イソ）キ天平ヲトリ出シテ渡シケリ。秦重包ヲトツテ一厘モ違ハヌヤウニハカリミルニ、十六兩乃（スナハ）チ一斤ノ目方（メカタ）アリ。秦重心中思フ『三兩ノ元手ヲ除ケテモ、一夜花柳ノ代ヲ出シ、猶アマリアリ』。又思フハ『個様ノ小玉銀バカリニテハ、其場ヘ出シタル時、人々見下（サ）ゲンモヨロシカラズ』。コノ両替屋ニテ丁銀<sup>(164)</sup>ニ引カヘモラフベシト少シノ火銭（キリチン）ヲ出シテ丁銀ニカヘ、夫ヨリ又足袋、頭巾ノ類モトトノヘ、家ニ帰テ、衣服ヲモ洗濯シ、少シノ香ヲ買テ、不淨ヲキヨメ、快晴ノ天気ヲ見立テ、身コシラ（27オ）ヘヤスル。秦重身コシラヘト、ノヒテ、銀子ヲ懷中シ、門口ニ錠ヲ下シ、直（タダチ）ニ九媽<sup>(165)</sup>ガ家ヲ望ンデオモムキケリ。此時イマタ興（キヨウ）ニ入ラザルニ、復（マタ）心中ニ愧（ハヅ）ルコトアリ。ツネツネ油ヲ荷（ニナフ）テ来リ、今日忽チ客トナリテ、如何（イカガ）口ヲ開カント思案ノ最中ニ、九媽走り来、秦重ヲ見付テ「秦小官、今日ハナンゾ生意（アキナヒ）ハナサズシテ、却テ<sup>(166)</sup>如此身ゴシラヘシテ那里（ドコ）ヘユイテ、何ノ用事カアルヤ」。秦重ハ老婆<sup>(165)</sup>ガ臉（カホ）ヲミテ辞義ヲスル。九媽モ同シク礼ヲナス。秦重申スヤウ、「我別ノ用事ナシ。ワザ<sup>(167)</sup>へ来テ媽々ヲ拜望（タノム）コトアリ」。那（カ）ノ鴉兒（クワシヤ）老積年<sup>(167)</sup>（トシヨリノシレモノ）、秦重ガ身ブリ、又タノムトアレバ面ヲミ（27ウ）テ心ヲシル。必ズ我家ノ個（コノ）丫頭<sup>(168)</sup>（ミセザヨラウ）ヲミテ「一夜鬪（カハ）ン」ト云ナルベ

(161) 湊得 còu dé 集める意。『金瓶』第七十九回「西門慶貪欲喪命 吳月娘失偶生兒」：“你每二人再湊得二百兩，少不也拿不出來，再備辦一張祭桌，一者祭奠大官人，二者交這銀子與他。”

(162) 天平 tiān píng 天秤の異体字表現。元 作者不詳『陳州棗米』第一折：“拿来上天平彈着，少少少，你這銀子則十四兩。”『儒林』第三二回：“而今這銀子在這里，拿天平來請少爺當面兌。”

(163) 是 shì 存在詞。～であるの意。この例は原文のまま。

(164) 丁銀 dīng yín 銀塊。註 (67) 参照。

(165) 老婆 lǎo pó。本来「老婆」は妻の意。ここでは年とった女性の意。「王九媽」をいうので、「秦重」にとっては得意先の女主人。

(166) 拜望 bài wàng 『宣和遺事』前集：“臣曰：‘今葭葦已得拜望，故敢以詩請。’上大笑。”『警世』白娘子永鎮雷峰塔：“小事何消掛懷。天色晚了，改日拜望。”『紅樓』第一〇五回：“有錦衣府堂官 趙老爺，帶領好幾位司官，前來拜望。”

(167) 老積年 lǎo jī nián 世故にたけた人。『醒世』本話：“那鴉兒是老積年，見貌弁色。”

(168) 丫頭 yā tou 小間使い、女中。

シ。此大身ノ金ハコニアラネドモ、籠ノ中へ入タル錢ナレバ、少シニテモ他カ錢ヲマウケテ菜ヲ買フ足錢（タシゼニ）ニシテモヨシトニコ〜笑テ云「秦小官我ヲオタノミトハ好き事ナラン」。秦重カ云「我、ハナシアレドモ、ドウシテヨロシカラシヤ。只是申シカネタリ」。媽々道（イフ）「只オハナシナサレヨ。何ニテモクルシカラズ。シバラク裏ノ坐舗へ行テ細談（トクトオハナシ）ナサレヨ」。秦重是売油ナリ。王家へ来ル事ハ百篇ニナレドモ、此裏坐舗ノ交椅ハ還（カヘツ）テソバヘモヨラズ、今日会面ノ初ニ有テ、九媽ニ引レテ至ル。賓主ヲ分テ坐ニツキ（28才）丫鬟（シモベヤンナ）茶ヲ出ス。スベテ外人ハ何ユエ油売ノ秦重ヲ九媽ハカクノ如クモテナスヲシラズ。頭ヲ下テヒソカニ笑ヒ居タリ。九媽此体ヲ見トガメテ云「客ニ対シテ作法ヲシラズ。大ニ無礼ナリ」ト叱リケレバ、ミナ〜茶碗ヲ引テ去ニケリ。九媽重テ云フ。「何ノ話（ハナシ）カアル」。秦重云ク「別ノ話ナシ。宅上（コノイヘ）ノ一位（ヒトリ）ノ姐々（ヂヨラウ）ヲ請（コフ）テ一杯吞テ楽ント存ズルナリ」。媽々云「酒モツネニハ吞（ノ）マヌ人ナルニ、必ズ闕（アゲ）ントスル。イツノ頃ヨリコノ風流ノ興ヲ思ヒ立ルヤ」。秦重云「我コノ思立真実ナル事、止（タ）一日ナラズ」。九媽云「我家ニ幾人（イクタリ）モ女郎アリ。你ノ目ニトマリタルハ、何レナルゾ」。秦（28ウ）重カ云「別ノ女郎ニハ望ナシ。タダ花魁娘子ト相處（アヒヤル）コト一夜ナラン」。九媽云「你トシタ事ヲイハル。却テワレヲナブルニテハナキヤ」。秦重云「我ハ実義ノモノナリ。何ノ虚言ヲ申サンヤ」。九媽云「糞桶（クソヲケ）ニモ耳ハアリ。你モキ、ツラン。我家ノ美娘ノ価（アタヒ）ハ你ガモテル売油ノ道具ヲ皆出シテモ、半夜ノ闕錢（アゲセン）ニモ引タラズ。夫ヨリハ相応ノモノヲ尋テタノシム事ヨカラシ」。秦重舌ヲ出シ、又縮（シジ）メテ云「你ガ家、美娘ノ一夜歌錢何千兩ヲ求ムルヤ」。九媽カレガ話ノ実義ナルヲミテ、却又笑ヲナシテ云「那（ナン）ゾ多

(169) 闕 kàn 虎のように勇ましいの意。翻訳上の誤まり。原文は「闕 piáo」で“嫖”と同じ。この話の原文は「要闕一夜」。以下同様。

(170) 細談 xì tán 打ち合わせる意。古例不詳。

(171) 交椅 jiāo yǐ “折りたたみ椅子。古称胡床、交床。後世称“太師椅”。『朱語』卷七七：“如這交椅是器，可坐便是交椅之理。”『醒世』·卢太学詩酒傲王侯：“汪知県又被夫人搶白了幾句，一發怒上加怒，坐在交椅上，氣憤憤的半響無語。”

(172) 賓主 bīn zhǔ 賓客と主人。

(173) 姐々 jiě jie ここでは、女郎への呼称。現代一般には姉の意。重ね形て用い、「大」や「二」を付して家族間で呼びかけ形として使われる。

(174) 相處 xiāng chǔ 共にいる。『二拍』卷十一：“這等，難道青天白日相處這幾時，這兩個却是鬼不成？”

(175) 闕錢 kàn qián 「揚げ代」この語はなく、正しくは「闕錢 piáo qián」で「闕」はあやまり。原文は「闕」(=嫖) piáo で淡齋主人が漢字間の微妙な差を誤って判断したものと思われる。註(169)参照。

(176) 歌錢 xié qián 揚げ代。

ク求メ申サン。只十両ナリ。其外ノ入用ハコノ内ニアラズ」。秦重(29オ)云「元ヨリ我モキク所、ソノ通り也。ソレナレバカルシカラズ」ト袖ノ中ヨリ取出ス。銀子ヒカ〜ヒカルヲ鶴児ニアタヘテ云「コレ掛目十両アリ。請フ、媽々ヲサメヨ」。又一ツノ銀ヲトリ出シ、「コレハ目方二両アリ。コレヲ以テ此度ノ事ヲヨク〜成就シテ玉ハル時ハ生死コノ恩忘ルマシ。後日又一礼スベシ」。九媽コノ銀子ヲミテ、手ヲ放ニ忍ビズ。又恐ル。『彼一時ノ興ニマカセ、後日ノ元手ヲ失ハバ後悔スベシ。ヨク〜訳(ワケ)ヲ云テヨカラン』。便(スナハ)チ云「コノ十両、你商ノ上ニテハ、マウクル事ヤスカラズ。トクト思案スベシ」。秦重云「我主意<sup>(177)</sup>ステニ定タレバ、後悔ナシ。媽々心(29ウ)ニカケ玉フナ」。九媽銀ヲ受取テ、「コレニテヨロシ。去ナガラ、此ニイロ〜ナル事アリ」。秦重云「媽々ハコノ家ノ御亭主ナリ。何ノワケノアルゾヤ」。九媽云ク「吾家ノ美娘ツキ合モノハ、スベテ是王孫公子(レキ〜)ノ客ナリ。白丁<sup>(178)</sup>(シモベ)ノ客トテハナシ。你ハコレ商ヲスル人タルヲシラザランヤ。然ル時ハ彼(カレ)得心イタスマジ」。秦重云ク「只媽々ドウゾシテ真実ニ事ヲ成就セバ、大恩忘ルベカラズ」。九媽彼ガ十分思ヒコンダルヲミテ、眉頭ニシワヲヨセ、心ニ一ツノ計(ハカリコト)ヲマウケ、笑テ云「老人你ノタメニ、計(ハカ)ルベシ。只你、事成就スルハ縁ニマカセ、就(ナリ)テモ喜トセズ。不<sub>レ</sub>就(ナラズ)トモ、立腹セラル、(30オ)ナ。美娘昨日ハ李学士ノ家ニテ酒宴アリテ、イマダカヘラズ。今日ハ黄衙内ノ約束ニテ、湖中ニ舟遊、山ニイヅ。明日ハ張山人ノ連中ノ催(モヨホシ)ニテ詩会アリ。明後日ハ韓尚書ノ若殿(ワカトノ)数日マヘニ入用ヲ出シオク。大後日ノ日ニ你来ラルベシ。ソレ迄ハ你モ我家ニ来テ油ヲウル事ハヤメ、此体面(グワイブン)ヲ思フベシ。マダ話(ハナシ)アリ。你布衣裳ヲ着用シテ来ラレテハ此上等ノ鬪客(オキヤク)ノ様子ニアラズ。重テ来ル時ニハ紬(ツムギ)緞(ドンズ)ノ衣服ヲ着用シ、我家ノ下部モ你ハコレ売油郎ニアラズト思フヤウニイタスベシ。老人モ你ノタメニトリナスベシ」。秦重云「一々心得タリ」ト。ワカレヲ、ナシ(30ウ)テカヘリケル。コノ三日ノ内ハ商売モセズ、典舗<sup>(179)</sup>(シチヤ)ニ行テ、ミグルシカラヌ衣服ヲト、ノへ、着用シ、街上間走(マチヲブラ〜)シ、斯文模様(コノオチツイタルフリ)ヲ演習<sup>(180)</sup>(ナラシ)ス。(31オ)

(177) 主意 zhùyì 考え、対応策。

(178) 白丁 bái dīng 無学な者。唐 劉禹錫『陋室銘』：“談笑有鴻儒，往來無白丁。”明 王鏊『春燕記』・報仇：“每嘗聞得那季小姐精於翰墨，這封書，恰像個白丁写的。”

(179) 典舗 diǎn pù 当舗。蘭日辞典の『類聚紅毛語訳』（『蛮語箋』として普及。寛政 10年）では森島中良がいち早く登録している。

(180) 演習 yǎn xí 練習。元 汪元亨『沉醉東風・帰田』曲之二：“薰陶成野叟情，剗削去時官様，演習會牧歌樵唱。”『西游』第三三回：“你不在本觀中侍奉香火，演習經法，為何在此閑行？”

## 通俗古今奇観卷之四終

## 通俗古今奇観卷之五 売油郎独占花魁下

過去ル事三日ノ間ハ話ナシ。第四日ニ至テ早朝ヨリ王九媽カ家ニユク時、太タ早クシテ門イマタ開カズ。一(ヒト)モドリシテ、再ビ来ラン。シカシナガラ今日ノ粧扮<sup>(181)</sup>(ナノ)ニテハ昭慶寺ヲ通タラハ那(カ)ノ和尚見トガムベシ。シバラク十景塘ニ行テ休足スベシト良久<sup>(182)</sup>シテ、又廻<sup>(183)</sup>(ハシリ)来レハ、王九媽ガ門ステニ開ケリ。那ノ門前ニハ馬轎子(ムマカゴ)ノ休ミ居ルアリ。門内ニハ供廻リノブラツイテミエルモアリ。秦重老<sup>(184)</sup>実(リチギ)トイヘドモ、又乖巧<sup>(185)</sup>(リコウ)ナリ。門内ヘ進マズ。那(カノ)馬夫ニ問テ云(1オ)「這(コノ)轎馬ハ是誰家ゾ」。馬夫云「韓府裏ヨリ来タル公子ノ迎ノモノ也。秦重已ニシル。夜前ハ公子ノ宿リタルニ、イマダカヘラザルトミエタリ。重テ又シバラク近所ノ飯店(チャ、)ニ行テ少ノ茶飯ヲ食シ、休足シテ来リミレバ、門前ノ轎馬モハヤカヘリタリ。門ニ進メバ、王九媽出迎テ云「我罪ヲ得タリ。今日モナリガタシ。今日ハ韓公子同道シテ東庄<sup>(186)</sup>(シモヤシキ)ニユキ、梅花ヲミル。彼ハナジミノ客、我モソムク事ナラズ。明日ハ靈隠寺ニテ碁会アリ。又斎衙内来テ約束アリ。是我大屋。辞スル事ヲエズ。彼来ル時ハ三日モ五日モ逗留シテ帰ル。我其程ヲハカル事アタハズ。你実ニ關(カ)ハ(1ウ)ント思ハ、コラヘテシバラク待ベシ。然ラズバ、前日ノ預タル銀子ハ其マ、返スベシ」。秦重ガ云「我ハ你ノトリモツテクレザルヲ恐ル。却テマツ事ハ一万年ナリトモ、クルシカラズ」。九媽云「左様ナラバ、我随分トリモツベシ」。秦重別ヲナシテ帰ラントス。九媽云「話アリ。你重テ様子ヲキ、ニ来ル時、早ク来ル事ナカレ。凡ソ申<sup>(187)</sup>ノ時ゴロヨロシ。客ノ有無ヲ告ベシ。此我实情你アヤマル事ナカレ」。秦重云「心得タ

(181) 粧扮 zhuāng bàn (「粧」は「妝」の異体字。装う・着飾るなどの意。『醒世』・錢秀才錯占鳳凰傳：“那顔俊虽則丑陋，最好粧扮，穿紅着綠，低声強笑，自以為美。” 1 装うこと。『紅樓』第七四回：“我看不上這浪樣兒。誰准許你這麼花紅柳綠的妝扮？” 2 スタイル。『初拍』卷十六：“只見一人高冠敞袖，似是道家妝扮。”

(182) 良久 liáng jiǔ しばらくの間。『史記』・淮陰侯列伝〔韓信〕曰：“大王自料勇悍仁彊孰与頂王？”漢王默然良久，曰：“不如也。”

(183) 廻 xué 折り返す。

(184) 老実 lǎo shí 誠実、正直の意。

(185) 乖巧 guài qiǎo 聡明の意。『醒世』・金令史美婢酬秀童：“他原是個乖巧的人，待人接物，十分克己。”『初拍』卷二十：“兄弟日漸長成，十分乖巧。”

(186) 東庄 dōng zhuāng 不詳。

(187) 申の刻。午後4時前後の2時間。

リ」ト云テ、此一日ハ商ヲヤメ、次日ヨリ油ヲ持出シテ別ノ処ヘユク。錢塘門ヘハカ、ラズ、外ニテ油ヲ売シマヒ、晩方出立ヲカヘテ、九媽ガモトヘ来リ様（2オ）子ヲキクニ、只是サシ合バカリ也。空シク過（スグ）ル事一月バカリニシテ、一日十二月十五日、雪大ニフル。雪ハレテ西風強ク、積雪スベテ氷トナル。寒気コトニ甚シ。却テヨシ。道ハカワク。秦重半日余、油ヲウリ、前ノ如ク用意シテ、又九媽ガ家ニ来テ様子ヲミル。九媽ニコヘ笑テ云フ「今日你ノシアハセ、已ニ九分九厘ハ成就セリ」。秦重云ク「コノ一厘ハナンゾヤ」。九媽云「コノ一厘ハ美娘家ニアラズ」。秦重云「今日カヘルベキヤ」。九媽云「今日ハ兪太尉ノ家ニテ雪見アリ。夫ヨリ湖上、舟ノ遊アリ。シカレドモ、太尉ハ年七十余ノ人ナレバ、風月ノ事ハステニナシ。元（モト）夕方ニハ送（2ウ）リ来ルベシ。你シバラク部屋ニ行テ、ユルヘ酒ヲ吞ンデ彼ガ帰ルヲマタルベシ」。秦重云「媽々ノ案内ヲタノム」。九媽、秦重ヲツレテ穹々曲々（マガリヘ）テ走ル事、シバラク個（コノ）坐鋪（ザシキ）ヘ通ル。コノハ二階ニテナシ。平屋ナリ。甚タヒロシ。一方ハ女ノ部ヤ、一方ハカラ家、床榻<sup>(189)</sup>（イス）ノ類アリ。右ノ方ハ美娘ガ寢所ナリ。両方ニモ小坐鋪アリ。中ノ間客坐ナリ。上面ニ一幅山水ノ画アリ。香几香合、文房ノ具ヲナラベ、壁ニハ詩モアリ。秦重文人ニアラザレバ、恥テミモセズ。心下思フヤウ、『外坐鋪コノヤウニ立派（リツパ）ナレバ、奥坐鋪ハ必ズヨカラン。今夜ハ十兩ノ金ユエニ思ノマノ樂ミ少シト（3オ）セズ』。九媽、秦重ヲ客坐ヘ直シ、自身ハ主位ニ在リ。シバラクシテ、下女燭台ヲ出シ、一ツノ八仙卓兒<sup>(190)</sup>（ミツホクダイ）ニ、イロヘ時ノ菓子ト酒肴ヲ持来ル。イマダ口ヘ入ラヌ内ニ、香氣ミチミチタリ。九媽ス、メテ云「今日内ノ女郎ミナ客アリ。我只連（ツレ）ニ成テ、ス、メン。ヨク飲玉ヘ」。秦重本（モト）酒量少シ。其上美娘モ来ラザレバ、只半盃デ跡ハノマズ。九媽云「秦小官時分ヨカラン。食事ヲナシ玉ヘ」ト、雪花ノ如キ白飯ヲ持テ来、秦重ガマヘニスエオク。鴛兒（クワシヤ）大上戸、飯ハ食ハズ、酒ヲ相伴ニ呑ケル。秦重飯ヲ一杯食シ、筋ヲ下ニオケバ、九媽云「夜長ナリ。再（フタ、ビ）酒ヲ吞玉ヘ」。秦重又少ヲ添フ下女行燈（3ウ）ヲモチ来リ。「浴場（ユ）ヨクワキタリ。洗浴シ玉ヘ」トイフ。秦重洗ヒ来レドモ、辞義モセズ、浴堂<sup>(191)</sup>（ユドノ）ヘ入テ、洗フ事一遍。重テ衣服ヲ着シ、坐ヘカヘル。九媽命シテ肴盆（サカナサラ）

(188) 原文「走」は歩くこと。

(189) 床榻（牀榻）chuáng tà 家具。椅子に似て長く大きい。『古今・李公子救蛇獲称心』：“李元酒醒……驚起視之，房內牀榻帳幔，皆是蛟綃圍繞。”

(190) 八仙桌 bā xiān zhuō 八人掛の正方形のテーブル。宋 晁補之『八仙案銘』：“東皋松菊堂，飲中八僊桼。”

(191) 浴堂 yù táng 風呂場、澡堂、寺院、皇宮の浴堂。宮中の浴堂は又浴殿という。宋 陳鵠『耆旧続聞』卷七：“簿遂移於寺之浴堂故址，別剏廨宇。”

ノ類ハカタ付サセ、煖鍋<sup>(192)</sup>（カンナベ）ニテ、酒ヲノム。此時黄昏モスギ、昭慶寺ノ鐘モ鳴レトモ、美娘ハイマダ家ニカヘラズ。常ニモ云フ「人ヲ待ハ心急ナリ」。秦重、美娘ヲ待ニ来ラズ。心ノ内ハ大ニ気モメスル。却テ鴛兒ニ夾七夾八<sup>(193)</sup>（クダへ）ト風話<sup>(194)</sup>（ゾメキ）ヲ云テ、酒ヲ勸（スゝ）メラレテ覺エズ。一時バカリモ過タル時ニ、外面サワガシ。コレ美娘ガ帰ルナリ。丫鬟（シモランナ）マヅ来テシラセル。九媽イソギ立出テ迎ケレバ、秦重モ坐ヲハナレテ立居タリ。只ミル美（4オ）娘吞過テ大酔、侍女ニ手ヲ引レテスゝミ来ル。入口ニ到リテ酔眼ウロへト坐中ノ燭台杯盤ノナラベタルヲミテ、足ヲ立トゞメ、問テ云「何人カコノ処ニ在テ酒ヲノム」。九媽云ク「ソナタニ我先日ハナセシ那（カノ）客秦小官。コノ方你ヲ慕ハルゝ事久シ。兼テ礼物ヲ送来ラル。只ソナタガ工夫（ヒマ）ヲエザルニヨツテ、那客ヲ延引スル事一月余リ也。你今日幸ト空（ヒマ）ヲエタレバ、ソナタ客ヲ留テ相伴セヨ」。美娘云「臨安郡中秦小官ト云人ヲキカズ。我其客ニハ合ハズ」ト云テ身ヲフリカヘシ走ル。九媽両手ニテオサヘトドメテ云「那客ハ心ザシノヨキ人。你誤ル事ナカレ」ト云（4ウ）へバ美娘身ヲカヘシ部屋ニ入り、頭ヲ上ケ一目（メ）ミテ云「我酔タレバ、急ニハ思ヒ出サレネドモ、我見覺アリ。彼ニ付合ハゞ人ニ笑ハレン」。九媽云「ソナタワスレタルヤ。此人ハ湧金門内ノ呉服ミセノ小官人。ハジメ我湧金門ニ在ル時、你ヲ思ヒ、曾（カツ）テ近付ニナリタリ。ソレユエ見覺アリ。你見アヤマル事ナカレ。我那（カノ）客ノ実義ナルヲミテ、你ニアハセント約束セリ。你我面皮<sup>(195)</sup>ヲ思ヒ、彼ト一夜伴フベシ。我不是（ヨロシカラヌ）ヲシリタレバ、明日ハ礼ヲイタスベシ」。一ツハ云ヒワケヲナシ、一ツハ美娘ガ肩ヲオシテ坐シキヘツレユケバ、美娘モ媽々ノ口ニハ叶ハズ、進ミ来テ秦重（5オ）ニ相見ル。此コノ言ハ秦重ガ耳ヘモー々入タレドモ、佯（イツハリ）テキカヌフリヤスル。美娘ハ秦重ヘ礼ヲナシ、側ニ坐シテ秦重ヲミテ甚疑ヒ、心ノ内喜バス。嘿々<sup>(196)</sup>トシテ無言。丫鬟（コメロ）ヲヨンデ酒ヲトリヨセ、大盃ニテノム。鴛兒（クワシヤ）云「客アリ。自ラノム事ヨロシカラズ」。九媽云「你酔タルアヒダ、少シノムベシ」。美娘ハ合点セズ、「我酔ハズ」ト十来盃（ジツパイバカリ）モ連（ツヅ）ケテノム。コレ酒後ノ酒酔中ノ酔、自ラ覺、脚モタゞズ、丫鬟ヲ呼デ寢屋

(192) 煖鍋 nuǎn guō 火鍋。「煖」は「暖」の異体字。古例不詳。

(193) 夾七夾八 jiā qī jiā bā ごちゃごちゃの意。夾三夾四、夾七帯八、夾七雜八なども同じ。

(194) 風話 fēng huà 男女間の冗談を言い合いふざけること。『水滸』第二一回：“押司，你不合是個男子漢，只得裝些溫柔，說些風話兒耍。”『古今』張道陵七試趙昇：“那女子到說些風話，引誘趙昇。”『二拍』卷二一：“〔王爵〕坐間未免將幾句風話撩他。那尼姑也是見多識廣的，公然不拒。”なおふりがなの日本語「ぞめき」は「騒がしい」意。

(195) 面皮 miàn pí 臉皮と同。顔の肌、面の皮、から「面目」の意。

(196) 嘿々 hēi hēi 感嘆詞。おうい、へい等。

へ燭ヲアゲサセ、頭ノカザリモトラズ、帯モトカズ其マヽニテ臥シ倒（タフ）ル。鶺鴒美娘ガ此体ヲミテ意ニ叶ハザレドモ、秦重ニ対シテ云「小女平日我マヽニテ今日訳（ワケ）ハシ（5ウ）ラネドモ、心ノ内、何かマカセヌ事アリトミエタリ。你ノ事ニハアラザレハ、腹立玉フベカラズ」。秦重ガ道（イ）フ「何がサテ心ヅカヒシ玉フナ」。鶺鴒又秦重ニ数盃ヲスヽメ、臥房<sup>(197)</sup>ニ入テ分付<sup>(198)</sup>シテ（イヒフクメテ）云「那（カノ）人酔タリ。アタヽカニ休ミ玉ヘ」。又呼（ヨン）デ道（イフ）「我兒衣ヲトイテ、ヨク〜睡レ」。美娘ハ夢中ニ在テ、一向答モナサズ。鶺鴒ハ勝手ヘ入ニケリ。丫鬟ハ盃盤<sup>(199)</sup>ノ類ヲトリカツケ、「秦小官人休ミ玉ヘ」ト云テ勝手ヘ入ニケリ。丫鬟ハ盃盤ノ類ヲトリカツケ秦小官人休ミ玉ヘト云テ勝手ヘ入ラントスルヲ、秦重呼返シテ云「熱キ茶一壺ヲモチ来レ」ト云。丫鬟一壺ノ茶ヲモチ来、秦重ニワタシテ部屋ニ入テ休ミケル。秦重ハ美娘ヲミルト正体ナク寝入タリ。夜（6オ）具ヲトツテヨクキセ、又思フヤウ。『酒ニ酔タル人ハ冷ヲオソル』。側ナル床ニアル大被<sup>(200)</sup>ヲ取<sup>(201)</sup>下シ、美娘ヲ蓋（オホ）ヒ、燭ヲカヽゲ、明ニナシ、茶壺ヲトツテ懷ニ入レ美娘ガ身ノ傍ニ眼モ合セズ坐シケル。夜半ノ頃ニモ成ケル時ニ、美娘目ヲアキ酒力<sup>(201)</sup>（サカケ）サメザル体ニテ、爬（ハビ）起アガリ、夜具ノ内ニ坐シ、頭ヲ垂レ、只管<sup>(202)</sup>（ヒタスラ）乾嘔<sup>(203)</sup>（カフエヅキ）ヲスル。秦重イソギ起来リ、彼ガ吐セントスルヲミテ、茶壺ヲ下ニオキ、手ヲ用テ彼ガ背（セナカ）ヲヤヽ久シク撫ケル。美娘喉タヘカネテ放開（カツト云）テ吐ク。秦重夜具ヲ汚サン事ヲ恐レ、自ラノ道袍着<sup>(204)</sup>（ウハギ）ノ袖ヲ張（ヒラ）キ、罩<sup>(205)</sup>（ヒツパ）リ、彼カ嘴（クチ）ノ下ニアツレバ、美娘ハワケモシラズ、思ノマ（6ウ）マ、シタヽカ吐ク。ハキ畢（ヲハリ）テ目ヲトヂ居ル。秦

(197) 臥房 wò fáng 寢室。

(198) 分付 fēn fù 吩咐。言いつける、申付ける、命じるなどの意。『水滸』第四五回：“石秀又分付道：‘哥哥今晚且不可胡發說話。’”

(199) 盃盤 bēi pán 酒席の道具。

(200) 大被 dà bèi 布団の意。

(201) 酒力 jiǔ lì 酒量の意。

(202) 只管 zhǐ guǎn 構わずに、気にせずの意。

(203) 乾嘔 gān yǒu 嘔吐してもものを吐き出せない意。「嘔」は嘔吐する意。

(204) 道袍着、こういう語は存在しない。ただ、「道袍 dào páo」と日本語「着」物からの合成語と考えられる。なお、古代の平服、大きな筒袖。道衣 道士の着る衣服の意。『金瓶』第三十回：“翟管家出来，穿着凉鞋淨袜，絲絹道袍。”『儒林』第十一回：“身穿一件青布厚棉道袍，脚下踏着暖鞋。”

(205) 罩 zhào 蓋う。重ねる意。この語は「秦重夜具ヲ汚サン事ヲ恐レ、自ラノ道袍着（ママ）（ウハギ）ノ袖ヲ張（ヒラ）キ、罩（ヒツパ）リ、彼カ嘴（クチ）ノ下ニアツレバ、」と「張、嘴」両語と並んで表現されるが、原文は「秦重怕汚了被窩，把自己的道袍袖子張開，罩在他嘴上。」とある。

重、側ノ茶ヲ引ヨセ汚タルモノハ脇ニオロシ、茶ヲコヽロムルニアタヽカナレバ、美娘ニトツテアタフルニ美娘二盃ヲノム。然レドモ胸中マダゴウヘト云テ、再ビ睡ケル。秦重ハ一袖ノ膾臙<sup>(206)</sup>(ムサヘシキ)モノヲヨクカタ付、初ノ如ク坐シケルニ、美娘ハ一睡ニ夜ノ明ル迄寝テ、ヤウヘ目ヲヒラキ、傍ヲミレバ、側ニアル秦重ヲミツケ問テ云「你ハ何モノソ」。秦重答テ云「我姓ハ秦」。美娘夜来ノ事ヲオモフニ夢中ノ如クニオボエケレドモ、シカト覚モナシ。便チ云「我夕(ユフ)ベハ大ニ酔タリ」。秦重云ク「甚ノ大酔ニアラズ」。又問「曾テ吐ハイタサ(7オ)ズヤ。秦重云ク「吐ズ」。美娘トクト思フニ「我吐タリ。又茶モ飲タリ。夢ニハアラズ」ト云。秦重ワヅカニ云「夜来吐ケリ。我小娘子ノ杯、酒ノ多キヲミウケテ、必ズ吐ント用心ニ茶ヲトリヨセ、懷中ニ入テ、アタヽメオキケルニ、果シテ吐タル後ニ茶ヲモトム。我用意ノ茶ヲ斟(クミ)テ進レバ、小娘子スデニ兩盃ヲノメリ」。美娘大ニ驚テ云「臙々(ムサヘ)ト吐出タルモノハ何レニアル」。秦重道(イ)<sup>(207)</sup>フ「小娘子ノ臥具<sup>(208)</sup>(ヤグ)ヲ汚(ケガ)サンコトヲ恐レ、我ガ袖ニ盛りテアリ」。美娘云フ「今何レニアル。」秦重道「衣服トヒトツニコヽニアリ」ト云。美娘云「惜ムベシ。你ノ衣服ヲ壞(クツ)サン」。秦重カ云「我幸ナリ。娘子ノ余瀝<sup>(209)</sup>(7ウ)ヲ沾セリ」。美娘キヽ畢(ヲハリ)テ思ラク、『個様ナル何カラ心エタル人カナ』ト四、五分ノ喜ヲナセリ。此時天色明ケレハ、美娘起テ小解<sup>(210)</sup>(セウヨウ)<sup>(211)</sup>シテ来リ。秦重ヲトクトミテ、忽チ思ヒ出ス。コレ売油ノ秦重ナルヲシツテ問テ云「你我二実ヲ告ヨ。何人ナルゾ。何ノ為ニ夕(ユフ)ベヨリコヽニアル」。秦重云ク「花魁娘子ノ問ヲウケ、何ゾカクシ申サン。実ハコレ我ハツネツネ此家ニ来ル売油ノ秦重ナリ。於是ツヒニハジメ客ヲ送ルヲミ、夫ヨリ又轎(カゴ)ニノルヲミウケテ心中忘ルル事<sup>ママ</sup>アタハズ。油ノマウケヲツミカサネ闕錢(アゲダイ)ヲコシラハタル事ヲ委細ニ話シ、夕ベヨリ小娘子ノ側

(206) 膾臙 ā zā 汚れ物。元 王実甫『西廂記』第二本第二折：“腔子里熱血權消渴，肺腑内生心且解饑，有甚膾臙？”

(207) 道 dào 動詞。言う、話す意。小説中に使われる。なお、「常言道 - ことわざに言う」など多く単独では使用されない傾向があるが、本話では単独でふつうに「説」と同様に使用される。

(208) 臥具 wò jù 寝具。

(209) 余瀝 yú lì 酒の余滴。『韓非子』・内儲説下：“齊中大夫有夷射者，御飲於王，醉甚而出，倚於郎門。門者別跪請曰：‘足下無意賜之余瀝乎？’” 晋 陶潜『咏貧士詩』之二：“傾壺絕余瀝，闕竈不見煙。” 清 劉瀛『珠江奇遇記』：“綉琴傾余瀝於地細紅曰：‘如此薄情人，當奠九泉下。’”

(210) 天色 tiān sè 空模様の意。岡島冠山『唐話纂要』(1718享和3)に「今日天色好」(キンジテンヌエホ)とみえる。

(211) 小解 xiǎo jiě 白話。排尿の意。撒尿。元 作者不詳『盆兒鬼』第三折：“俺可要起来小解了。”『古今』・張道陵七試趙昇：“妾乃西村農家之女，隨伴出来玩月，因往田中小解，失了伴侶，追尋不着，迷路至此。”

ニー夜近(8オ)付居ルハ三世ノ仕合ナリ。満足シタルヨシライヘバ、美娘キ、テ愈(イヨ〜)可憐<sup>(212)</sup>(アハレミ)ヲ加ヘ、「我昨夜ハ大ニ酒ニ酔テ、你ガ在ヲシラズ。你ニ多クノ銀子ヲツヒエサセタリ」。秦重ガ云「娘子ハ天上ノ天女モ同前也。我タゞ側ニ在テ、御介抱(カイハウ)ノトゞカヌヲセメラル、事ナケレバ幸也。何ゾ外ノ望アラシヤ」。美娘云「你ハ經紀<sup>(213)</sup>(アキナヒ)ノ人ナリ。此銀子ハタクハヘテ内ノ入用ニセザルヤ。此地ハコレ你ノ輩ノ来往スル所ニハアラズ」。秦重云「我只独身モノナリ」。美娘云「你今日帰リテハ、何(イ)ツ又来ランヤ」。秦重カ云「コノ夕(ユフ)ベヨリ你ノ側ニ一夜近ツク。平生ノ願、満足ナリ。何ゾ再ビ痴想<sup>(214)</sup>(バカ)ナル事(8オ)ヲイタサンヤ」。美娘思案シテ云フ『得難シ〜。コノヤウノ善人又情ヲシリ趣ヲシリ、人ノ悪ヲカクシ、善ヲ揚ク。千百人ノ中ニモコノ一人ニ逢ガタシ。惜ムベシ。是市井ノ輩、若是衣冠ノ子弟(ワカキヒト)ナラバ、願テモ身ヲマカセ、此人ニツカヘン』ト。沈吟ノ内ニ鬢手水ヲモチ来ル。秦重<sup>(215)</sup>臉(カホ)計リアラヒ、頭ハ夜中幘(カムリモノ)ヲヌガザレハ、梳ニ及バズ<sup>(216)</sup>姜湯(シヤウガユ)ヲ呷(ス、リ)別ヲナシテカヘラントス。美娘云「少シ待玉ヘ。話アリ」。秦重ガ云「我花魁娘子ヲオモフ事久シ。傍ニ在ル事一刻ニテ足レリ。但人トシテ自ラ了簡ナカラシヤ。夕ベヨリ此ニ在ル事、実ニ是大胆ナリ。タゞ人知タラバ芳名(ヨキナ)ヲケガ(9オ)サン。早く帰ル事却テヨロシ」。美娘、頭(カシラ)ヲウナヅキ、イソギ鬢ヲ外ヘ出シ、手箱ヲヒラキ二十兩ノ銀子ヲ出シ、秦重ニ与ヘテ云「昨夜カタシケナシ。此銀子ハ少シナレドモ、元手(モトデ)ニナシ玉ヘ。人ニ対シテ説(ト)ク事ナカレ」。秦重ドコ迄モウケトラズ。美娘云「我銀子ハ至テ出来ヤスシ。此秦少シノ銀子ヲ以テ、你ノ一夜ノ情ヲ報ズ。固ク辞退シ玉フナ。此上ニモ元錢ナキ時ハトリニ来リ玉ヘ。你ヲ助ケル所アルベシ。那(カ)ノ汚(ケガ)レタル衣服ハ我ノ鬢ニ洗ハスベシ」。秦重ガ云「僮服<sup>(217)</sup>ナレバ娘子ノ心ヅカヒシ玉フナ。我洗濯(センダク)ノコトハ仕ナレタレバ苦シカラズ」。美娘云「何モ云ブンハ(9ウ)ナシ」ト、那ノ銀子ヲモツテ秦重ガ袖ノ内ヘ押(オシ)コミテ出シム。秦重思フニ『推却<sup>(218)</sup>(モドス事)モナラズ』。只受取テ一札ヲノベテ立テ出脱タル。汚ノ衣服ハ捲テ肩ニカケ、鴛兒(クワシヤ)ニアヒテカ

(212) 可憐 kě lián 憐憫。『醒世』・三孝廉讓産立高名：“从此里中父老，人人薄許武所為，都可憐他兩個兄弟。”

(213) 經紀 jīng jì 商売。『朱語』卷二六：“譬如人作折本經紀相似。”『警世』・王安石三難蘇学士：“却不想小經紀若折了分文，一家不得喫飯。”

(214) 痴想 chī xiǎng 幻想。宋 秦觀『玉樓春』詞：“支頤痴想眉愁压，咬損紆紆銀指甲。”

(215) 姜湯 jiāng tāng 生姜湯。

(216) 呷 xiā 少しずつ飲む、啜る意。

(217) 僮服 cū fú 粗末な服。「僮」は「粗 cū」と同。

ヘルトイヘバ、九媽立出テ「秦小官イカンゾ早く帰り玉フ」。秦重云「少シノ用事アレバ急ギカヘル。又再来ルベシ」ト立出ル。サテ美娘ハ一夜秦重ト睡ラザレドモ、彼ガ一片ノ誠心ヲオモヒツゞケ、「此一日ハ酒ニ害（アタリ）タリ」ト云テ、客ニモアハズ、只秦重バカリヲ思ヒツメケリ。

此美娘ガコトハシバラクオイテ、又前ノ話（ハナシ）ヲシテ、ハジメマス。<sup>(219)</sup>

那（カノ）邢権、朱十老ガ家ニ在テ蘭花ト情深クナリ、朱十老カ病デ床（10オ）ニアルモカマハズ、憚ル事ナシ。十老幾度モ彼等ヲ計ラントシケルニ、兩人却テ一條ノ計策ヲナシ、夜深ク静ナルヲ待テ、店中ノ代物ヲ捲（マイ）テ盗取り、二人ナランデ桃之夭夭<sup>(220)</sup>（ヌスヒトハルカニ）逃（ニ）ケ延（ノ）ビ、行方ヲシラズ。次日日夜明二人ガ走タルコトヲ、十老知テ隣家ヲ央（ヤトフ）<sup>(221)</sup>テ失單（ウセモノ、カキ上）<sup>(222)</sup>ヲ出シ、尋訪フ事数日ナレドモ、一向様子モシレズ。深く侮ルハ当日（ソノカミ）思ハズ那ノ邢権ニ惑ハサレ、朱重ヲ逐出（オヒイダ）セシ事キケバ、朱重ハ衆安橋ニ借家ヲカリ、油ヲ売ルト、彼ヲ呼返シ、家ニオカバ、老人ノ靠（タノミ）<sup>(223)</sup>ニナルベシ。只オソラクハ彼マヘノ恨ヲ思ハンカ。隣家ノ者ヲタノミ、彼ヲスゝメテカヘラシム。「但ヨキ（10ウ）コトハオボエ、悪ハワスレヨ」ト、秦重コノ一言ヲキゝテ、即日道具ヲトリカタツケテ、十老ガ家ニハコビカヘル。十老ハ相見エ、痛哭スル事一遍。十老アル所ノ囊ノ内ノ金銀ヲミナへトリ出シ、交付（ワタシ）ケリ。秦重モ二十余兩ノ本錢アリ。カサネテ店ヲト、ノヘ家ニ在テ油ヲウル。朱家ヘ戻リテ油ヲウルユエ、又秦ノ字ヲ用ヒズ朱重ト、ナフ。一月ニモナラヌ内ニ十老病氣オモリ医治シルシアラズ。哀哉、死ニケリ。朱重胸ヲ打テ、大ニ哀シミ、真ノ父ノ如ク葬礼ヲナシ、七々日ノ法事ヲイタシ、先祖ヨリノ墓所ナレバ、清波門<sup>(224)</sup>外ニ墓ヲ立テ事々礼ヲ尽シケレハ、隣（11オ）里ノ人々モ朱重ガ厚徳ヲ称セザルハナシ。事終テ先々ノ通りミセヲ開キケルニ、親ノ代ヨリ久シキ油ミセユエニ生意（アキナヒ）

(218) 推却 tuī què 断る、謝して辞退するなどの意。宋 劉義慶『世説』・方正 “旗等白問：‘嵇侍中善於絲竹，公可令操之。’遂送樂器。紹 推却不受。”『水滸』第四三回：“李云推却不過，略呷了兩口。”

(219) 原文「話分兩頭，再說邢権在朱十老家」この一節は章回小説の場面轉換の常套表現。

(220) 桃之夭夭 táo zhī yāo yāo 『詩經』の一句。「桃」が「逃」と同音のため、逃げ走る形容で、「とんずらする。ずらかる」意で使われる。この前後の原文は「兩個商量出一條計策來，俟夜靜更深，將店中資本席捲，雙雙的桃之夭夭，不知去向。」

(221) 央 yāng 尋ね求める意。

(222) 失單 shī dān 盗まれた財産の書付、リスト等の意。『古今』・臨安里錢婆留初迹：“次日，王節使方到，已知家小船被盜。細開失單，往杭州府告狀。”

(223) 靠 kào 頼む。

(224) 清波門 qīng bō mén 杭州十大主城門の一つ。西南門。

モ多シ。却テ邢権ニ元手ヲウバヽレ弄得<sup>(225)</sup>（サンへ）ニナリタルヲミ、朱重ガ店内ニ在テ律儀（リチギ）ニ商ヲスルガ為ニタレへモ立ヨツテ取モチヲスルホドニ生理（シヤウバイ）日々繁昌（ハンジヤウ）シテ前々ニ比（クラ）ブレハ、イヨへ盛ナリ。朱重ハ独身ニテアルユエニ、急ニ老成（ジツテイ）ナル手伝（テツタヒ）ヲ尋ネケルニ、商ノ上手ナル男アルヨシヲ、中人<sup>(226)</sup>、金中ガ言ニ因テ、彼男ヲタノミケリ。那（カ）ノ人ハ元来莘善。汴梁城外安楽村ニ居住シケルガ、先年兵乱ノ時節ニ走り出テ、女兒瑶琴ヲ官兵ニ追放（11ウ）サレ、夫妻二人トボへト東西ヲ逃ケ廻リ、幾年カウロツキ今日臨安ノ地ノ静ニナリタルヲキヽテ、我女兒モ尋タク、又身マハリ盤纏（ロヨウ）モ用ヒ尽シ、宿払モナクナリ、如何トモ仕方ノナキ処へ中人、金中ガ話ヲキヽ、自身モ前々仕オボエタル事ナレバ、コレ幸ヒ、ソノ上朱重ハ原（モト）ハ汴京ノ人。コレ又白里、コノ故ニ金中ト朱重ガ家ニ来レバ、朱重委細ヲ問フテ郷人ヲミテ、オボエズ痛マシク思テ云「你二人只我モトニ居ラレヨ。郷里ノ人モトヨリ親シキ事ナレバ、ユルへ你ノ女兒ノ行エモ尋ヌベシ」。サシ当リ二貫ノ錢ヲトリ出シ莘善ニ与へ、店賃ノ借ヲ払ハセ（12オ）渾家（ニヨボウ）阮氏ト一軒ノ明家（アキヤ）ヲ形付テ、カノ二人ヲオク。兩人モ心ヲツクシ、カラ出シ、内外ノ手伝ヲナス。朱重モ大ニ喜ビ、オボエズ一年余立ケル。近所ノ人朱重イマダ妻ヲモタズ、身上モヨシ。人品モヨシ。人々女兒ヲツカハシ、女房ニセント申コムモノアレドモ、朱重ハ花魁娘子ヲミナレタルユエ、等閑<sup>(227)</sup>モノハ目ニモ入レス、何ゾヨキ女子ヲ見立テ縁ヲ求メタク、ソレユエニ一日へト延引イタシケリ。サテ王美娘ハ九媽カ家ニ在テ評判十分盛ナレハ、朝暮歡樂（アケクレタノシミ）ハ思ヒノマヽ真ニ口ニハ肥甘<sup>(228)</sup>（ウマキモノ）ニアキ、身ニハ錦繡（ニシキ）ノ香ノナキヲ嫌（キラ）フ。シカレドモ毎ニ意ニカナハヌ。（12ウ）或ハ子弟（ワカキ）人々ノ我マヽナルニアヒ、或ハ自身モ夜半酔後二人ノ疼熱<sup>(229)</sup>（イタル）モノモナシ。此時ニ秦重ガ志ヲ思ヒ来レハ、只恨ム再会ニ縁ナキ事ヲ。コヽニ臨安城中ニ呉八公子ト云アリ。父ハ呉岳見（ゲン）ニ福州ノ太守タリ。此八公子新タニ回来ル金銀沢山ニ持タル人ナリ。常々三瓦兩舎<sup>(230)</sup>（クルフ）ニ遊ヒ、花魁娘子ガ名ヲキヽ、イマダ面ヲシラズ、シバへ人ヲツカハシ、彼ヲ闕

(225) 盤纏 pán chán 旅費。元 高文秀『黒旋風』第三折：“俺娘与了我一貫鈔，着我路上做盤纏。”明 王鏊『尋親記』・発配：“小的愿去，只路途遥远，没有盤缠。”

(226) 中人 zhōng rén 仲介人の意。

(227) 等閑 dēng xián 平凡な者の意。

(228) 肥甘 fēi gān 美味、おいしいの意。

(229) 疼熱 tēng rè 親愛、愛護の意。元 王仲文『救孝子』第一折：“我想這大的個小廝，必然是你乞養過房螟蛉之子，不着疼熱。”『醒世』李玉英獄中訟冤：“焦氏嚷道：‘又不是親生的，教我着疼熱，還要算計哩！’”『儒林』第六回：“還怕我不會疼熱他，教導他？”

(アゲ)ントス。美娘ハ彼カ氣質ノヨカラヌヲキヽ、付合フ事ヲ願ハズ、イロへ断(コトワ)リヲ云。那ノ八公子間漢們(ブラモノヽトモガラ)ト自ラ九媽ガ家ニ幾度モ至ルトイヘドモ、ツビニ美娘ニ出合ハズ、其時清明ノ節<sup>(231)</sup>ニ到テ人々先祖ノ墓ノ(13オ)掃除ヲナシ其帰リニ処々野ガケニユクモノ多シ。美娘ハツヅイテノ遊ニクタビレ、其ウヘ頼ノアル詩画ノカクノモ多キユエニ、客来ルトモ断ヲ云。部屋ノ口ヲヨク閉(タテ)サセ、一炉ノ香ヲタキ、文房四宝(スゞリスミカミフデ)ヲトリナラベ、筆ヲラントスル処ニ、外面ニエカヘル。コレ八公子十人計ノ狼僕<sup>(232)</sup>(ワルモノ)ヲ名連レ美娘ヲムカヘ、湖中ニ舟遊山(フナユサン)ヲセントスル。鴉兒(クワシヤ)タビへ公子ヲ空シク回シタルニヨリ、彼八公子ハ坐舖(ザシキ)ニ在テ器物ヲ打破リ、直ニ闇(サワイ)デ美娘ガ部屋ニ至ル。ミレバ入口ニハ錠ヲ下シケリ。元来妓家ニ客ヲ回ス法アリ。小娘子(ジヨラウ)ヲ部屋ノ内へ奥深クカクシ、却テ部屋ノ(13ウ)入口ニ錠ヲ下シ、支吾(トヤカウ)云テ、留主ナルヨシヲコトワレバ、老実(リチギ)ナル客ハ哄(ダマ)サレテカヘル。吳公子ハ事ニナレタルモノユエニ、コノヤウナル套子<sup>(233)</sup>(テダテ)ニハ怎地<sup>(234)</sup>(ナンゾ)瞞(スカシ)得(エ)ン。召連タル家来ニ分付(マウシツケ)錠ヲ扭(ネヂ)キラセ、部ヤ口ノ戸ヲ踢(ケ)タフシ、内ヲミレハ、美娘ハノガルベキ所モナク居ケルヲ、公子家来ニ申シ付、左右ノ手ヲ引立テ、ヘヤヨリヒキ出シ、外ヘツレ行、サンベニ罵(ノヽシ)リケリ。九媽スヽンデ申シワケヲナサントオモヘドモ、ソノ勢ノオソロシキヲミテ、閃過<sup>(235)</sup>(ヨケ)テ通ス家内ノモノモ、ミナへ片脇(カタワキ)ヘカクレラル。公子ノ家来ノ狼僕(アラヲトコ)、美娘ヲ引テ、九媽ガ門ヲ出テ、彼ガ弓鞋<sup>(236)</sup>(アシノハキモノ)ノ小キモ(14オ)管(カマ)ハズ、街上(マチ)ヲ望テ飛ガ如クニハシリケル。八公子ハ跡ヨリ揚々(スマシガホ)ニテ、直ニ西湖ニ至リ、美娘ヲ攫下(ヒツサゲ)テ舟ニ下シケ

(230) 三瓦両舎 sān wǎ liǎng shè 宋 妓院、茶屋、酒場及び遊芸場の総称。『水滸』第二回：“因帮了一个生铁王员外儿子使钱，每日三瓦両舎，風花雪月，被他父親開封府告了一紙文状。”『醒世』本話原文：“〔吳八公子〕平昔間也喜賭錢喫酒，三瓦両舎走動。”

(231) 清明節 qīng míng jié 靈祭り。日本のお盆にあたる。現代毎年4月5日前後。

(232) 狼僕 hén pú 古例不詳。狼 hén 凶悪の意。

(233) 套子 tàozǐ わな(圈套)、ペテンの意。『西游』第二七回：“師父，我若来遲，你定入他套子，遭他毒手。”

(234) 怎地 zěndì 疑問詞。『京通・西山一窟鬼』：“我家中渾家却不知怎地盼望。”

(235) 閃過 shǎnguò 不意の出現したもの意。

(236) 弓鞋 gōng xié 往時、纏足した女性の履いた靴。「鞋」は靴の意。ほかに「弓鞵」。宋 黃庭堅『滿庭芳・妓女』詞：“直待朱幡去後，從伊便窄袜弓鞋。”宋 張世南『游宦紀聞』卷四：“又有富室携少女求頌。僧曰：‘好弓鞋，敢求一隻。’語再四，不得已遺之。即裂其底得衬紙，乃仏経也。”

ルニ、コノ美娘十二歳ノ時ニ王九媽ガ家ニ至リ、錦繡ノ中ニテ成人シタルニ、何ノコノヤウノ辱ヲウケン。船ニ下リ面ヲ掩テ、大ニ哭ス。公子ハ面（ツラ）ヲフクラシ関雲長<sup>(237)</sup>ガ単刀（タンタウ）<sup>(238)</sup>ヲ提（サゲ）テ呉国ヘ行タルアリサマ、交椅ニヨリテ坐ス。狼僕（アラキヲトコ）モ左右ニ並居タリ。一面（カタヘ）ヘハ分付（マウシツケ）テ舟ヲコギ出シ、一面ハヨブ。小賤人（コアマ）<sup>(239)</sup>、小娼根（コヂヨラウ）<sup>(240)</sup>人ノ抬拳（トリタテル）ヲウケズシテ、再ビ哭セバ、打テヤルト云。美娘ハドコカ彼等ガ言ヲ恐レン。哭シテヤマズ。舟湖心亭ニ至テ呉八公子申シ付テ亭子（14ウ）ノ内ニ上テ、酒ヲ初メ又家来ニ申シ付テ「彼小賤人（コアマ）ヲツレ来テ酒ノツレニセヨ」ト云。美娘ヲカ、ヘ上テツレ行ントスレドモ、ドコカ合点セン、只是大ニカナシム。公子興ナキヲ覚エテ、自ラ幾杯（イクハイ）ノ酒ヲノミ、何カヲカタ付サセ舟ニ下リ、自ラ美娘ヲ引来ラントスルニ、美娘ハ両足ヲタ、キ立テ哭声、イヨヘ高シ。公子大ニ怒リ、狼僕ヲ呼テ簪（カンザシ）、珥（サシモノ）ヲ拔去リケレバ、美娘ハ頭ヲアラケ走り出テ、ステニ湖中ヘ飛入ラントスルヲ、大勢立カ、リタスケトム。公子云「你アラガフテ合点セズ。就（スナハチ）是死シタリトモ、ワレ幾兩ノ金ヲ捨ルノミニテ大事ナラズ。サレドモ你一命ヲ（15オ）捨ルハ、也（マタ）是罪過ナレバ、你哭スル事ヲヤメバ、你ヲ放チ回スベシ」。美娘ハ放チ回スト云ヲキ、テ、スナハチ哭ヲ住（トゞ）メケリ。公子舟ヲ申付テ清波門外ノ静ナル所ヘ付サセ、美娘ガ繡鞋（ハキモノ）ヲ脱去（ヌキサリ）、足ヲ露（アラハ）シ出シ、一對ノ金蓮<sup>(241)</sup>、又兩條ノ玉筍<sup>(242)</sup>ニ似タリ。狼僕ヲ呼テ他ヲ扶ケ岸ヘ上ゲ、罵（ノ、シリ）テ云「你小賤人（コアマ）你回ル事ガナルナラバ、自ラ家ニ回リ去レ。我你ヲ送ル人ナシ」ト竿ヲ把（トリ）テ舟ヲコギ出、湖中ニ向テ去。美娘ハナクヘ思フヤウ『我カラ足ニナリ、少モ歩行スルコトナラズ。自己才貌両ナガラ全キニ、風塵ノ内ニオチ、此イヤシメニアフ。平日王子公孫（レキヘ）ノ貴客ニ付合トイヘ（15ウ）ドモ、急ナル時ニ至テ便（タヨリ）ニナラズ。此難儀ニアヘリ。是ヨリ生テカヘリタルトモ面目ナシ。不如（シカズ）コノ処ニテ死シタルニハシカレドモ、此処ニテ死シタラバ、平日ノ名モカクレ、犬馬ノ死シタルモ同シコトナリ。コ、ニ至テハ、村里ノ婦人我ニ勝レル事十二分ナリ。都テコレ劉四媽ガ口ニ哄（ダマ）サレテ此坑（アナ）ヘ落タリ。古ヨリ云フゴトク、紅顔

(237) 関雲長 guān yún cháng 関羽のこと。雲長は字。

(238) 関雲長ガ単刀『三国』六十六回「単刀劈四冠」の故事。

(239) 小賤人 xiǎo jiàn rén 若い女性の罵りことば。

(240) 小娼根 xiǎo chāng gēn 「娼根 chāng gēn」は詈詞で元明の白話。妓女をいう。

(241) 一對ノ金蓮、「金蓮 jīn lián」女性の小さな足をいう。

(242) 兩條ノ玉筍、「玉筍 yù zhēng」原文「如兩條玉筍」。「玉筍 yù sǔn」=「玉笋」。美人のかほそい脚、手をいう。「筍」は淡齋主人の誤りと思われる。

ハ薄命（フシアハセ）ノタネ』トイヨへ思ヒ、イヨへ哭シケルニ、折コソヨケレ。  
朱重、此日清波門外ノ朱十老ガ墓マキリ、祭物ヲソナヘ帰ル所、哭声ノ甚シキヲキ、  
 立ヨリテミルニ、乱レ髪ニ面ハ垢（アカ）ヅキタレドモ、那（カ）ノ玉貌花容元ヨリ両  
 ナシ。「如（16オ）何ゾシラザランヤ」。一驚ヲ喫シテ云「花魁娘子如何ゾカヤウノ体ナル  
 ヤ」。美娘哀哭ノ中ヨリ声ヲキ、付ケ、泣ヲトメテコレヲミレバ、『正是情ヲシリ趣ヲ  
 識ルノ秦小官ナリ』。美娘コノ時ニ当テ親人ヲミルガ如ク、心中ノ有タケヲ彼ニ告レバ、  
朱重モ心中十分疼痛（イタマシク）、又コレガ為ニ涕ヲ流ス。袖中アル所ノ白綾ノ汗巾、<sup>(244)</sup>  
 長サ五尺ハカリアリケルヲ取出シ、二ツニキツテ美娘ニ与（アタ）へ、自ラ彼ガ為ニ涙  
 ヲ拭ヒ、又彼ヲ引起シ、言（コトバ）ヤハラカニトキナダメ、美娘カ哭ノ定ヲ待テ、煖  
 轎（カゴ）<sup>(245)</sup>ヲ呼テ坐セシメ、自ラアトニ付テ、王九媽カ家ニ至ル。九媽ハ女兒ノ消息ヲ  
 シラズ。四方（16ウ）へ人ヲ出シ尋ル処ニ、秦小官女兒ヲ送テカヘリ来ル。分明ニ一顆ノ  
 明珠送テ来テ、彼ニ返スナレバ、如何ソ喜バザラン。其上又秦重ガ油ヲ持テ来ラズ。人  
 ノ話ヲキケバ朱十老ガ家へ行テ、家業ヲツギ、身上モ追々繁昌シ、前ニクラブレバ大ニ  
 同ジカラズ。目ヲスツテ相マツ処、今又女兒ガ此様子ヲ尋問ヒ、女兒大難ニアヒタル処  
 ヲ秦重ノ情ニテタスケラレ、拝謝（レイライウ事）ヤマズ。酒肴ヲ設ケテス、メケリ。  
 日モクレニ及ベハ秦重数杯ヲ吞テカヘラントス。美娘「イカンゾカヘサン。我一向、你  
 ヲ想フ。你ノ面ヲミザルヲウラム。今日你ヲ空クカヘサズ」。鶺鴒（クワシヤ）モ、トモ  
 べ留メ（17オ）ケレバ、秦重思ノ外ノ喜、コノ夜美娘吹（フキ）モノ、彈（ヒキ）モノ  
 平生ノ芸ヲ尽シテ秦重ヲモテナセバ、秦重遊仙ノ楽、<sup>(247)</sup>好夢ノ喜、魂魄モ蕩消（左・<sup>ママ</sup>■  
 キエ）シ、手舞（マヒ）足踏（フミ）夜闌（タケナハ）ニシテ、二人相引テ寢屋ニ入ル。  
 雲雨ノ事、<sup>(248)</sup>美満セリ。美娘云ク「我ニ心腹ノ言アリ。你ニカタラン。你辞シ申サル、

- (243) 親人 qīn rén 元明では親族、配偶者の意。元 武漢臣『老生児』第三折：“怎生得個劉家門里的親人来，可也好哩。”『兒女英雄伝』第十五回：“我父親只養了我一個兒，我又沒個弟兄，巴不得多一個親人。”
- (244) 汗巾 hàn jīn 被服の上にしめる長い腰帯。『醒世』本話原文：“袖中帶有白綾汗巾一条，約有五尺多長，取出劈半扯開，奉与美娘裹脚，親手与他拭淚。”『紅樓』第二八回：“撩衣將繫小衣兒的一条大紅汗巾子解下来，送給宝玉。”
- (245) 煖轎 nuǎn jiào 帷幔（垂れ布）で遮蔽できる駕籠。「煖」は「暖」の異体字。『水滸』第五八回：“看見太守那乘轎子，却是煖轎，轎窓兩邊各有十個虞候簇拥着。”
- (246) 明珠 míng zhū 真珠。
- (247) 遊仙ノ楽 神仙の世界を遊歴すること。神仙の世界で一夜の歡樂を過ごしたという唐代伝奇小説の祖と言われる張鷟『遊仙窟』が有名。
- (248) 美満 měi mǎn 幸福、愉快、円満に感じる。唐 杜牧『池州送孟遲先輩』詩：“千帆美満風，曉日殷鮮血。”明 劉基『吳歌』：“明月比心花比面，花容美満月团圓。”

ナ」。秦重ガ云「娘子モシ吾ニ用事アラバ、タトヘ火ノ中水ノ中ニ入トモ辞セザル所ナリ」。美娘ガ云「我你ニ嫁シタク思フ」。秦重キイテ笑テ云「娘子嫁セントスル時、一万遍カゾヘテモ、我頭ノ上ニハイタルマジ。笑ハル、計ニアラズ。自ラ我モコラヘラレヌ事ナリ」。美娘云「コレ真実ノ話ナリ。怎（ナンゾ）笑ヲ取ノ二字（17ウ）ヲ説ン。我十四歳ノ時、<sup>(249)</sup>媽々ニ灌醉（ヨハ）セラレ、ソノ時梳弄（ミツアゲ）セラル。此時ニ身ウケノ人ヲエタクオモヘドモ、善悪ヲ弁セズ。恐ラクハ一生ヲ悞ラン事ヲ思ヒ、其後出合フ人ハ多シトイヘドモ、都テ豪華ノ輩酒色ノ人ニテ、只笑ヲ買、歡ヲ追ノ樂ノミヲ心ガケルバカリニテ那（ナン）ゾ香（カ）ヲ憐ミ玉ヲ惜ノ真実ノ心アラン。看（ミ・ミクラベ）来リ、看（ミ・ミクラベ）去ルニ只你一人コノ志誠ノ君子ナリ。況ヤキクニ你イマダ親（ヨメ）ヲ娶（メト）ラズ。モシ我烟花（オヤマノ）賤貨（ミブン）ヲキラハズバ、願テ朝夕ノ膳ヲソナヘテ給仕セン。白頭ニ至ル迄モ、你ニ奉侍（ツカヘ）ン。你モシ不允（シヨウチセザル）トキ、我三尺ノ絹ヲモテ、君ガマヘニ死シ、吾コノ誠ノ心ヲ表スベシ（18オ）又昨日村郎ノ人ノ手ニ死シ名モナク、人ノ笑ヲトルニ勝ルベシ」ト、鳴々ト哭シケレバ、秦重云「小娘子悲ム事ヲヤメヨ。我娘子ノ憐ヲウケル天ヲ以テ地ニ就ノタトヘコレヲ求ムトモ得ズ。豈彼此ト云フ理アランヤ。只是小娘子ハ千金ノ身、我ハ家貧シク力（チカラ）ウスシ。イカンゾハカラヒ申サン。コレユエニ従ハズ」。美娘云「コレ却テ苦シカラズ、我身ウケノコトヲ思フユエ、豫（アラカジ）メ此身ウケノ金ハ用意シテ、外ニ預ケオケリ。一錢モ你ノ心ヅカヒナシ」。秦重云「ソレハ小娘子自ラノ身ウケナリ。平生大家高堂ニ坐シ、錦繡ヲ着シ美食ヲ食ヒタルニ、我家如何ゾ過活（スギアヒ）セ（18ウ）ン」。美娘云「<sup>(250)</sup>布衣ヲ着（キ）、<sup>(251)</sup>麤食ヲ食ヒ、死シテモ怨ナシ」。秦重ガ云ク「小娘子ハ其思入ナルトモ、只恐ラクハ媽々従ハズ」。美娘云「我自ラ道理アリ。其所ハカヤウ〜這般々々（コノトホリ〜）」。兩人話シテ、夜ノ明ルニ至ル。元来（モトヨリ）韓公子ノモト、齋舎人ノモト、此幾人ノ家ニ美娘カネテ箱篋（ニモツ）ヲアヅケオキ、入用ノ時ニトリ来ラント、ヒソカニ約束ヲイタシケリ。秦重彼取メテ家ニアリ。ソレヨリ轎子（ノリモノ）ヲ抬（アゲ）テ、劉四媽カ家ニ至リ従良（ミウケ）ノ事ヲ申シケレバ、四媽云「此事我前日申シタルコトナリ。只是年数却テ早シ。又シラズ。你何人ニ従ハント欲ス」。美娘云「嬢娘（ヲバゴ）你我何人ニ依ヲ管（カマヒ）玉フナ。嬢娘ノ教（19オ）玉フ処ノ真従良、樂従良、了従良ニ依テ、那（カ）ノ不真、不仮、不了、不絶ノ

(249) 灌醉 guàn zuì 盛りつぶす。酒を飲ませて酔い潰す。『金瓶』第十二回「潘金蓮私僕受辱 劉理星魔勝求財」：“（潘金蓮）把小廝灌醉了，掩上房門，褪衣解帶，兩個就乾做一處。”

(250) 布衣 bù yī 木綿の衣服。平服の意。

(251) 麤食 cū shí 粗末な食事。「麤」は「粗」の異体字。

勾当<sup>(252)</sup> (コト) デハナシ。只要 (ネガハ) クハ、嬢娘 (ヲバゴ) ノ申シ出シ玉フトキ、媽々ノ允 (シヨウチ) セン事ヲ。我別ニ上ル物ナシ。只十兩ノ金子アリ。嬢娘ニ奉ラン。又此釵子 (サンモノ) 媽々ノ面前ニテ方便 (ヨキヤウ) ニナシ玉ヘ。事成就スル時、御礼ハ別ニ致スベシ。四媽<sup>(253)</sup> コノ金子ヲ見テ眼ブチナイホド、ニコヘシテ云「ソレハヘ、我カ喜、又你ノ喜ナリ。如何ゾ你ノモノヲ申ウケンヤ。シカシ志ナラバ、暫クモラフテ置マス。入用ノ時ニハ又你ノ為ニ取メオクナリ。此事ハ我身ハカラヒニアリ。只是你ノ家ノ娘 (カ)、你ヲ錢ノナル樹ニシテオケバ、カローヘシクハ (19ウ) 出スマイ。千兩ノ金モオシマヌ男、コレ合点シテ出スベキヤ。其男アル時ハ、我你ノ家ノ娘 (カ) ニ見エテ相談スベシ。美娘<sup>(254)</sup> カ云「嬢娘、間事 (ムダナル事) ハ管 (カマフ) 事ナカレ。只你ノ姪女 (メイ) 自ラ身ウケスルト言テヨシ。四媽云ク「你ノ媽々你カ吾家ニ在事ヲシリテアルヤ」。美娘カ云「媽々ハシラス」。四媽カ云「你シバラク吾家ニ在テ、出来合 (デキアヒ) ノ飯ヲ食シテ待 (マ) テ。我マツ你ガ家ニ至テ、媽々ト話 (ハナ) シ合ヒ、相談ノ出来タル時ニ、你ニ報ゼン。夫ヨリ四媽ハ轎子 (カゴ) ニノリ、九媽<sup>(255)</sup> ガ家ニ至ル。九媽ムカヘテ内ニ入ル。四媽八公子ノ事ヲ問ヘバ、媽々其日ノ事ヲ語ル事一遍、四媽ガ云「我行戸人家 (クルワノイヘ) ニハコノ半低 (デズ) (20オ) 不高 (イラズ) ノ丫頭 (コトモ) ヲ養成 (ソダテ) 錢ヲマウクルハ安穩 (オダヤカ) ナリ。ドノヤウナル客ト云コトナシニ、空日ナキヲヨシトス。只姪女 (メイゴ) ハ評判大クシテ、一塊 (ヒトキレ) ノ肉地ニオツレバ、蟻 (アリ) ノヨリアヒテ、コレヲトラントスル如クヤカマシ。却又家内モ静ナラズ。言 (イフ) ニハ一夜十兩トイヘドモ、コレ又虚名ナリ。那 (カ) ノ王孫公子来ル事一遍スレバ、幾人モ幫間 (タイコ) ツイテ来リ、連宵 (ヨトヲシ) 達旦 (ヨアケ) マデ費バカリナリ。供廻リモ又少カラズ。カレラヲモテナス事行トバカヌ事アレバ、口々 (クチヘ) 哩噠囉噠<sup>(256)</sup> (カレノコレノト) 人ヲ罵 (ノ、シ) リ、シラヌ内ニハ你ガ家火 (ダウグ) ヲ打損シスレドモ、彼ガ旦那 (ダンナ) ニ告ル事モナラズ。イクラノ閑氣<sup>(256)</sup> (ゴウハラ) ヲコラヘル。況ヤ山人墨客 (20ウ) 詩社、棋社ノ来テ、一月ノ内ニハイクラモ官身アリ。コレラノ客你引ツケ、我引ツケ彼ニ従ヘバ、此ハ立服スル、就 (ス

(252) 勾当 gōu dàng よからぬこと、悪事の意。

(253) 間事 xián shì 閑事に同じ。「間」=「閑」=「閒」自分に関係のない事、つまらない事。余計な事。唐 鮑溶『相和歌辞』苦哉遠征人：“虚名乃間事，生見父母郷。”宋 蘇軾『戲周正孺二絶』卷之一：“勸君羈駱猶閑事，腸斷閩中楊柳枝。”明王守仁『伝習録』卷上：“持志如心痛，一心在痛上，岂有工夫説閑話，管閑事。”

(254) 哩噠囉噠 lì lián luō lián また「叽哩咕嚕」とも。話が明瞭ではない形容。『二拍』卷二五：〔徐達〕一心只在新娘子身上，口里哩噠囉噠，把礼数多七顛八倒起来。”

(255) 家火 jiā huǒ 「火」は「伙」か。家具類の意。

ナハチ) コレ呉八公子ノコノ風波(アレタル)人ヲ驚カス。万一間違(マチガヒ)ノアルトキハ本トモニ失ト云モノナリ。官宦<sup>ママ</sup>家ハ他(カレ)ト相手ニ成テ公義ヘモチ出ス事モナラズ、只虫ヲコラヘルバカリナリ。今日你カ家、無事太平ナルニ、モジ<sup>ママ</sup>天カラ電ノオチクル如クノ災アツテ山高水低(モシモノコト)アル時ハ、悔トモ及ブ事ナシ。妹子(ワタシ<sup>ママ</sup>)キクニ、八公子コレムツカシキ人ナリ。却テ你ガ家ヲサワガセントス。姪女(メイゴ)ノ生レ付ツヨケレバ、人ノ氣ニ入ルヤウニ持(モテ)ナス事ハ出来ズ。コレ禍ヲマネクノ(21オ)本ナリ。九媽ガ云「我モコノ事ハ心ニカヽリ、安心セヌ事ナリ。カノ八公子評判ノアル人ニテ、又下賤ノ輩ニアラズ。コノ丫頭(ランナ)死ストモ、公子ニ出合ズ。ユエニ此度ノ難義ヲ引出タリ。彼(カレ)少年(左・ワカキ)ノトキニハ、人ノ教訓モキ、ウケタレドモ、今日彼(カレ)コノ大評判ノアル事ユエ、富貴ノ人々モミナミナ彼ヲ誉アゲ、彼ガ生質(キシヤウ)高ブリラレバ、動シニモ動カズ。自ラ氣ノアヘル客ニハ出テ合ヒ、モシ氣ノアハヌ客ナレバ九牛ニテ引テモ、中々彼ヲ引出ス事ハナラヌ也」。四媽ガ云「做小娘的(ヂヨラウタルモノ)オホカタハ、ソノヤウナルモノナリ」。九媽ガ云「我今日你ト相談セン。モシ金ヲ出スモノアラ(21ウ)バ他ヲ売テサツパリトシテ、後日ノ氣安メヲハカラン。四媽云「コノ相談甚タ妙ナリ。彼ヒトリヲウリ、就(スナハ)チ、五、六人ノ相応ナルヲトリアツメオカバ、却テ勝手ニハヨロシカルベシ」。九媽云「我計ミルニ、那(カ)ノ勢アルモノ力(チカラ)アルモノハ、金ヲ出シ、カ又専ラ人ノ金ヲ出スノミヲ求(モト)ムレバ、其金ヲ出スモノハ女兒好(ヨイ)ノワルイノト云テ、合点イタスマジ。妹子(オマヘ)媒(ナカダチ)ヲナシ玉ハゞ、好(ヨ)キモノアラバ、取持テ下サレヨ。モシ又女兒合点セヌ時ハ、却又你スヽメテ下サレヨ。此女兒做娘的(ハヽオヤタルモノ)ノ話ノキヽ入レズ、只你ノ話ハ彼ヨクキヽ入ル」。四媽カラ―ト大笑シテ云「做妹子的(ワタシガ)コヽ(22オ)ヘ来ル。正ニ姪女(メイ)ノ媒ノ為ナリ。你何ホドノ金ヲトリテ、合点シテ彼ヲ出サ<sup>空白</sup>〇ヤ」。九媽云ク「妹子(イモウト)你ハコレ道理ヲワキマヘタル人ナリ。我們コノ行戸中(クルワノナカ)ニハ只安ク買事ハアリ。何ソ安クウル事アランヤ。且美娘年盛ナリ。臨安中誰カコレ彼ハ花魁娘子ヲシラザラン。三百、四百ニテハ彼ヲ動カシガタシ。千金ヲ求メント欲ス」。四媽カ云ク「オマチ下サレヨ。妹子(ワタシガ)去(ユイ)テ講(サウダン)シ、モシ承知シテ、其数ヲ出シタラバ、便チ来テ口ヲキクベシ。モシ此事出来ズバ、又来ルマジ」。立カヽツテ、ワザト問テ云「今日姪女ハイヅクヘ行ケル」。九媽云「先日八公子ノサワギヨリ、毎

(256) 閑氣 xián qì あるいは「問氣」、「聞氣」。差し迫って重要ではない事情、生きる気分をいう。  
宋 梅堯臣『永叔贈酒』詩：“始得紅且橫，既醉論益堅。曾不究世務，閑氣爭古先。”『紅樓』第八四回：“媽媽，你這種閑氣不要放在心纔好。”

日轡（カゴ）ニノ（22ウ）リ、人々ノ宅ヘユク。前日ハ齊太尉ノ家ニユク。昨日ハ翰林ノ家ニユク。今日ハ又何レニユクヲシラズ。四媽カ云「你ハコノ主兒（テイシユ）ナリ。ヨク了簡（レウケン）ヲキハメヨ。姪女万一合点セザル時ハ妹子（ワタシ）自ラ他（カレ）ヲス、メテ来ラン。你マチガヒヲイタサル、ナ」。九媽云ク「一言スデニ出ツ。並ニ他ノ言ヒブンナシ」。四媽「オヤカマシ」ト云テ、轡（カゴ）ニノリテカヘル。四媽ハ家ニカヘリテ美娘ニ語テ云フ「我今你ガ媽々ニ対シテカヤウヘニ語シカヤウヘ。一講（サウダン）シテ、你ガ媽々合点イタシタリ。只見金（ゲンキン）ニ金ヲ出シタラバ。コノ事立所ニ成ルヘシ」。美娘云「銀子ハトクニ用意シテアリ。明日我家（23オ）ニ来リ玉ヒテ、千万此事ヲ就シ玉ヘ。延引イタサバ、又サハリモ出来ラン」。四媽ガ云「スデニ約束ヲ定メタル上ハ我自ラユクベシ」。美娘ハ四媽ニ別レテ家ニ回り、此事少モ口ヘ出サズ。次日ノ九ツ時分ニ四媽果シテ来リケレバ、九媽問テ云フ「昨日ノ事ハイカン」。四媽云「只十二八、九分ハ出来テ居レトモ、姪女（メイ）ト話シ合ハズ」。四媽、美娘ガ部屋ニ至リ、両方挨拶（アイサツ）シテ、四媽云ク「你カ媽々合点セヌ。那（カ）ノ一物ハ那里（ドコ）ニアル」。美娘床頭ノ皮箱ヲ指（ユビ）ザシテ云「コレニアリ」トテ、皮箱ノ内ヨリ五十両包十三、四モ取出シ、又金珠寶玉ノ類、価ヲ積ルニ千両ノ数アリケレハ、四（23ウ）媽驚テ眼中火ヲ出シ、口ヨリハ涎（ヨド）ヲ流シ、想（オモフ）ニ小々年紀ノ女兒、此等ノ思慮アル事不<sub>レ</sub>知何ノ工面ヲ設ケテ、此ヤウニ物ヲアツメケル。我家ニ在ル幾人ノ粉頭（チヨラウ）ドモ何トシテ彼ニオヒツカンヤ。マ、錢アル時ハ瓜ヲカヒ、菓子ヲカヒ、砂糖ヲカヒテ食フ。両足ノ足袋ノ類ヤブル、時ハ倣媽的（オヤブンノモノ）ノ錢ヲツカフ。九媽ハ何ノ仕合ニテ、コノヤウナル女兒ヲエテ年々多クノ錢ヲ購（マウ）ケタル。此ハ四媽心ノ内ニ思フ事デ口外ヘ出サズ。美娘、四媽ガ何カ感心シテ物モイハザルヲ見テ、只道「彼礼物ノ不足ナルヲオモヘルカ」ト急キ四疋ノ袖ト宝釵一對、鳳頭ノ玉簪ヲ取テ（24オ）卓（シヨク）ノ上ニオキ、「此品々ハ嬢娘ニ奉り代柯（ナカウド）ノ礼トスル」。四媽大ニ喜テ九媽ニ向テ説（トイ）テ云「姪女願ニテ自身ニ身価（ミウケ）ノカネ）ヲ出シ、一文モ不足ナシ。外々ノ身ウケニ比スレバ、ハルカニヨシ。外々ニテ身ウケノ時ハ間漢<sup>(257)</sup>（ブラモノ）ノ輩、中ヘ入。毎日酒ヲツヒヤシ、却テ又加一加二（イチワリニワリ）ノモノヲ彼ニ礼ニヤル」。九媽女兒ガ皮箱ノ内ニ物ノ多クアルヲミテ、嘖

(257) 間漢 xián hàn 「間」「閑」「閒」と同じ。仕事をもたず、ぶらぶらしている者。宋 孟元老『東京夢華録・飲食菓子』：“更有百姓入酒肆，見子弟少年輩飲酒，近前小心供過使命，買物命妓，取送錢物之類，謂之閑漢。”宋 吳自牧『夢梁錄』・「閑人」：“又謂之‘間漢’，凡擊鷹，架鷓，調鶉，斗鶉，斗鷄，賭僕落生之類。”『儒林』第二八回：“阿三前走，後面跟了一個閑漢，挑了一担東西，是些三牲和些銀錠，紙馬之類。”

然（フクレタル）ノ色アリ。コレ何ユエナレバ、世間ノ鴉兒（クワシヤ）尤、狼（オソロシ）倣小娘（チヨラウ）的ノ物アレバ、スベテ他ニワタス。モシ又少シノ物ノ箱ノ内ニアルヲミツケタル時ハ、女兒ノ留主ニ取出シ、質屋ヘヤリ、又ハ取出シ空ニスル事ナリ。只此美娘ハ盛名ノ女兒（24ウ）タルユエ、付合フモノハ大頭兒（オホアタマ）、倣娘（ハ・ブン）的ノ替（タメ）ニ金ヲ掙<sup>(258)</sup>（マウケ）テヤル。又生質モハゲシキモノユエ、等閑（ナホザリ）ノモノハ彼ニモノ言ハズ。此故ニ臥房<sup>(259)</sup>（ヘヤ）ノ内ヘハ鴉兒（クワシヤ）脚（アシ）モ又進マズ。誰カシラン彼コノヤウニ金アラントハ。四媽ハ九媽ガ顔色ノアシキヲサトリ、忙（イツ）ギ云フ「九媽你三心兩意<sup>(260)</sup>（コ・ロカハリ）ヲスル事ヲ休（ヤメ）ヨ。此モノハamina—姪女（メイ）ノ自身ニツミタメタル金ニテ、少モ你ノ物ニハアラズ。彼モシ此金ヲムリニ費スコトヲシル時ハ、又ムダニスル事モアルベシ。或ハ是不長進<sup>(261)</sup>（オトナシカラヌ）モノヲ把（トリ）来リ、他ニツキマツハラバ你也（マタ）シルベカラズ。今ノ女兒ノ様子ハ彼ガ身上モチノヨキ処ナリ。其（25オ）ウヘ小娘手ノ中ニハモハヤ金錢アル事ナシ。身ウケノトキニハ赤裸ニ成テ門ヲ出、頭上脚下ノ物迄モオイテユク。今彼此モノヲ取出シ来ルニ、一紙一錢モ你ガモノヲツヒヤサズ。此金子ヲ你ウケトリテ、腰（コシ）ニツケバ、彼ハ你ノ女兒ニアラズトモ、彼様子ノヨキ時、ヨリ—你ノ家ニ来テ孝順ナラバヨカルベシ。又彼嫁スル時実ノ父母トテハナシ。你却テ外婆<sup>(262)</sup>（ハ・ブン）トナラバ物ヲ受用スルニモヨカルベシ。此一スデノ話ノ理アルニ、九媽心中サツパリトシテ応允<sup>(263)</sup>（シヨウチ）イタシケリ。四媽立去テ銀子ヲ搬（ハコビ）出シ、一包一包ニ兌過<sup>(264)</sup>（ヒキ）シテ、九媽ニ交付（ワタ）シ、又金珠寶玉ノモノノ値段（25ウ）ヲナシ、九媽ニ対シテ、コレハ倣妹子的、他（カレ）ニ些ノ価ヲ出シ、カヒ置ケリ。モシ換

(258) 掙 zhèng 努力する、骨を折る、励む等の意。

(259) 臥房 wò fáng 寢室。明 徐榜『濟南紀政』・楊化記：“其姑扶之入臥房，未就枕席即跳躍而起。”

(260) 三心兩意 sān xīn liǎng yì 常に不安な心をいう。古例不詳。「三心二意」と同じ。元 閩漢脚『救風塵』第一折：“争奈是匪妓，都三心二意。”

(261) 長進 zhǎng jìn 学問などが進歩すること。『朱語』卷一三二：“頃在某処得書来，説学問又如何，資質又如何，読書不長進又如何。”『紅樓』第二一回：“〔湘云〕將胭脂從他手中打落，說道：‘不長進的毛病兒，多早晚才改？’”

(262) 外婆 wài pó 一般には「外祖母」をいうが、ここでは往時、遊客を遇する遊郭のやり手婆の呼称。本話以外では、清代の用例を挙げる。余瓌『板橋雜記』・雅遊：“妓家，僕稱之曰娘，外人呼之曰小娘，假母稱之曰娘兒，有客稱客曰姐夫，客稱假母曰外婆。”

(263) 応允 yīng yǔn 応答、允許。『京通』・西山一窟鬼：“乾娘 応允，和王婆謝了吳教授自去。”『三国』第十六回：“紀靈私付：戟在一百五十步之外，安能便中？且落得応允。待其不中，那時凭我廝殺。”

(264) 兌過 duì guò この場面では天秤で銀を計り換算する内容と考えられる。淡齋主人が兌を何と読んだかは不明。また「兌過」を一語と考えたとは思われない。

ヘテ人ニアタヘバ幾十両ノ金ヲ得ベシ。王九媽鴉兒ナレドモ、今コヽニ至テ老實（オトナシク）何コトモ四媽ガ申ス通ニイタシケリ。四媽ハ九媽ガ東西<sup>(265)</sup>（モノ）ヲ取（ヲサム）ルヲミテ、亡八（タイコ）ノモノヲ呼テ婚書ヲカヽセテ美娘ニ与フ。美娘云「嬢娘（ヲハサン）ノコヽニ在ル内ニ奴家（ワレ）ハ爹媽（オヤブン）ニイトマヲ申シ、嬢娘ノ家ヲカリ、一兩日休足シ、吉日ヲミテ従良セン。嬢娘得心シ玉ハンヤ。四媽ハ美娘ガ金ヲウケタレバ、『九媽ガモシ後悔スル事モアランカ』ト美娘ガ門ヲ出ルヲ巴（マチ）得ズ。「便チ如此スベシ」ト云テ美娘ガヘヤノモノヲ（26オ）カタツケ鴉兒ガモノニハ手モ付サセズ。收拾（カタツケ）ヲハリテ四媽ニシタガフテヘヤヲ出、仮爹（チヽブン）仮媽（ハヽブン）ニイトマ乞シテ立出ル。九媽モ哭スルコト幾声イタシケリ。美娘ハ人ヲヨンデ行李（ニモツ）ヲモタセ、欣然トシテ四媽ガ家ニ至ル。四媽ハ一間ノ静ナル所ヲカタツケ、美娘ガ行李ヲオロシオク。多クノ娘子（ヂヨラウ）モヨリアツマリ、美娘ヘヨロコビヲイフ。コノ晩、朱重ハ莘善ヲ四媽ガモトニ差（ツカハ）シテ、信（タヨリ）ヲキク。ステニ知ル美娘ガ自ラ身ウケノ金ヲ出シ来ル。コヽニオイテ吉日ヲエラビ、笙簞（フキモノ）、鼓樂（タヽクモノ）ヲイタシ親（ママ）ヲメトル。四媽モ媒人トナリテオクリ来ル。朱重ハ花魁娘子ト花燭（26ウ）坐ヲ照シ、洞房（ヘヤ）ニ入テ、歡喜限りナシ。次ノ日莘善夫婦、親人（ヨメ）ヲミレハ、各々相知テオドロイテ、「何故ニコヽヘ来ル」ト事ノ由ヲ細々トキヽ、親子三人頭ヲカヽヘテ哭シケル。朱重モ丈人（シウト）丈母（シウトメ）ナル事ヲ知テ、二人ヲ請テ上坐ヘ直シ、夫妻二人重テ拝シヨハリ、隣家近辺ノモノモ、追々キヽ伝ヘテオドロカザルモノナシ。是日大ニ筵席ヲ設テ酒ヲノミ飲ヲツクシテ退散ス。三日ノ後、美娘丈夫ヲシテ品々ノ厚礼ヲソナヘテ処々懇意ノ方ヘオクリ、久シク寄頓（アヅケモノ）ヲイタシタル一礼ヲノベ、并ニ今度従良ノ信息（オトヅレ）ヲ告ゲシラセル。是亦美娘ガ始メアリ、終アルノ処也。（27オ）王九媽、劉四媽ガ家ヨリモ各祝義ヲ送りケリ。ミナへ感心セザルモノナシ。満月ノヽチ、美娘籠ヲヒラキ、内ニ有トコロノ金銀呉綾蜀錦ノ類ヲミルニトモ二、三千余金ノモノナリ。錠匙ヲソヘテ丈夫ニワタシ、ユルへト家ヲ買ソヘ、産業ヲヒロメケル。都テ是文人莘公管理（シハイ）ス。一年ナラヌ内ニ家業繁昌シテ花錦ノ如ク相似タリ。下女下男ヲ多ク召ツカヒ、大ニ勢アリ。朱重ハ天地ニ感謝シ、神明保佑<sup>(266)</sup>ノ徳アル事ヲ思ヒ、発心シテ処々ノ寺々ヘ香燭ヲ捧ケ、又ハ灯油ヲ供シケリ。三ヶ月ノ間、モノイミシテ自ラ往テ香ヲ拈テ礼拝ス。先ツ昭慶寺ヨリ初メ靈隱寺、法（27ウ）相寺、淨慈寺、天竺寺ノ寺々ヘ次ヲ以テ參詣ス。中

(265) 東西 dōng xī さまざまな具体、あるいは抽象的な事物を指す。明 朱有燉『豹子和尚自還俗』：“我又無甚希奇物，我又無甚好東西，他偷我箇甚的？”『紅樓』第三五回：“風姐笑道：‘這一宗東西，家常不大做；今兒宝兄弟提起来了，单做給他喫。’”

ニ天竺寺ハ観音大士ノ香火、上天竺アリ、中天竺アリ、下天竺アリ。三ヶ所共ニ繁昌ナリ。却是山路ニシテ舟路ナシ。<sup>(267)</sup>朱重僕人<sup>(268)</sup>ニ香燭一荷、清油三荷ヲモタセ、自ラ轎（カゴ）ニノリ、マツ上天竺ニ至ル。寺僧ムカヘテ殿ニ上ル時ニ、年老タル香火<sup>(269)</sup>ノ秦公、燭ヲツケ香ヲ添ル。朱重ハコノ時居ハ氣ヲカヘ養ハ体ヲカヘ、儀容<sup>(270)</sup>（カタチ）魁岸<sup>(271)</sup>（ユツタリトシテ）、マタ幼時ノ面目ニアラズ。秦公那里（ドコ）カコレ我子ナル事ヲ知り得ン。只油桶ノ上ニ大キニ秦字、又汴梁ノ二字ヲミ付テ、心ノ内奇（アヤシ）ミケリ。是天然ノ折ノ幸ヒ、上天竺ニ至テコノ油ヲ用ヒ、朱重ハ香（28オ）ヲ拈リ、拝シ畢ル。秦公茶ヲ出サシメ問テ云フ「施主コノ油ノ桶ノ上ニコノ三字ノアルハ何ノ子細ニテアルゾヤ」。朱重<sup>(272)</sup>キクニ汴梁ノ声音ナレバ、答ヘテ云「和尚你コレヲ問玉フハナンゾ。你ハ汴梁ノ人ニテハナキヤ」。秦公云「正ニ是ナリ」。朱重云「你ノ姓ハ何、名ハ誰、何ユエニ此ニ在テ出家セラル」。秦公自ラノ姓名ヲ以テ告ゲ、郷里迄モ委細ニ話シ、「先年兵乱ヲサケテ、コノニ至ル外<sup>マ</sup>度世ノ計モナケレバ、十三歳ニナリタル兒子ヲ朱家ニアタヘ、今ハ八年ニナル。一向年ヨリタレバ、音信モキク事ナラズ」ト云ヘハ、朱重声ヲ放テ大ニ哭シ、「我ハ便（スナハ）チ秦重。向（サキ）ニ（28ウ）朱家ニ在テ油ヲ荷テ売、父親ノ行エヲ求メンタメニ、此油桶ノ上ニ秦ノ字、汴梁ノ二字ヲ標識（メシルシニ）書付ケオケリ。思ハズ此地ニテ逢フ事天ノアタヘ也」。衆僧彼ガ父子ノ別ル、事八年ニテ今日会スル事、各々奇ニ思ケル。朱重此日ハ上天竺ニ在テ、父親ト同宿シ、各情節<sup>(273)</sup>ヲノベ、次ノ日ハ中天竺、下天竺ヘ参リ、又朱重ヲ改メテ秦重ト本姓ニ復シ、両所ニテ香ヲタキ、礼拝畢テ上天竺ニカヘリ、父親秦公ヲ同道シテ家ニ回り、安樂ニ供養セントイヘバ、秦公ハ出家

- (266) 神明保佑 shén míng bǎo yòu 神明は神霊、神祇のこと。『易』・繫辞下：“陰陽合德，而剛柔有体，以体天地之变，以通神明之德。”「保佑」神の加護のこと。『紅樓』第六回：“‘謀事在人，成事在天。’咱們謀到了，靠菩薩的保佑，有些機會，也未可知。”
- (267) 天竺寺 tiān zhú sì 杭州古代の名刹。上天竺寺、中天竺寺、下天竺寺からなり、天竺三寺と呼称される。
- (268) 僕人 pú rén 雇われの下働きをいう。
- (269) 香火 xiāng huǒ 寺男のこと。
- (270) 儀容 yí róng 健康的な容貌。『東觀漢記』・明帝紀：“臣望顔色儀容，類似先帝。”元 関漢卿『五侯宴』第二折：“這孩兒儀容兒清秀，模樣兒英杰。”
- (271) 魁岸 kuí àn 体が大きいこと。『漢書』・江充伝：“充為人魁岸，容貌甚壯。”『南史』・袁泌伝：“〔袁泌〕字文洋，清正有干局，容体魁岸，志行修謹。”『醒世』本話原文：“此時朱重居移氣，養移体，容儀魁岸，非復幼時面目。”
- (272) 声音 shēng yīn 話すときの声。宋 蘇軾『東坡志林』・弁附語：“世有附語者，多婢妾賤人，否則衰病不久当死者也，其声音举止，皆類死者。”『醒世』・蔡瑞虹忍辱報仇：“瑞虹在艙中，聽得船頭說話，是淮安声音，与賊頭陳小四一般無二。”
- (273) 情節 qíng jié 事の変化と経過を指す。『朱語』卷一〇六：“後面却点对以前所断当否。或有未尽情節，擬断在後，如此了却。”『水滸』第四一回：“飲酒中間，說起許多情節。”

スデニ久シ。持斎スル事ナレバ、兒子ニ随テ回ルヲ願ハズ。秦重ガ云「兒子父ニ別ル、事八年。奉侍ス(29オ)ル事ヲ欠ク。兒子今新ニ婦(ヨメ)ヲ娶(メト)リタリ。彼ニモ公々ヲ拝見サセタク」申シケレバ、秦公ヤウへ合点シテ秦重轎(カゴ)ヲ以テ父親ヲ乗ラシメ、自ラハ歩行シテ家ニ回ル。秦重一ツノ新シキ衣服ヲ出シ、父親ニアタヘテ換へ、中堂ニ坐ヲ設ケ、妻ノ莘氏ト同シク、双々並テ参拜ス。<sup>(274)</sup>親家(ヨメノオヤ)莘公親母阮氏一所ニ来リ、相見エ、此日大ニ酒宴ヲ設ケ、ル。次日隣里ヨリモ祝義ヲ送ル。一ニハ新婚、二ニハ新娘子ノ家眷<sup>(275)</sup>(シンルキ)団円<sup>(276)</sup>(アツマリ)、三ニハ父子重テ逢、四ニハ秦重本姓ニ復スル。コノ四ツノ喜ヒニテ、又幾日モ酒宴ヲナシケル。秦公ハ久シク家ニ在ル事ヲ思ハズ、上天竺ノ故居ニカヘラ(29ウ)ントス。秦重親ノ心ニタガハズ。銀二百兩ヲ将(モツ)テ上天竺ニ於テ一所ノ浄室ヲ立テ、父ヲ送テ居ラシメ、其日用ハ毎月送ル。自ラモ十日毎ニ一次(タビ)行テ安否ヲトフ。一季ニ一度ハ妻ト同シク行。秦公、活(イケル事)八十余ニシテ病ナク坐シナガラ化(シ)ス。本山(タソノテラ)ニ葬ル。コレハ後(アト)ノ話(ハナシ)ナリ。サテ又秦重ハ妻莘氏ト偕ニ年ヨリ、兩人ノ兒子ヲ生ス。子共モ書ヲ讀ミ、名ヲアラハシケリ。今ニ至テ風月市(クルワ)中ノ語ニ幫襯ニヨキヲ秦小官トイフ。又ハ売油郎トモイフトカヤ。後人ノ詩ニ云。

春來処々百花新<sup>ナリ</sup> 蜂蝶紛々競採<sup>ル</sup>春<sup>ヲ</sup>(30オ)  
堪<sup>タリ</sup>愛<sup>スル</sup>ニ豪家ノ多子弟 風流不<sup>レ</sup>及<sup>ス</sup>賣油人<sup>ニ</sup>

## 通俗古今奇観 卷之五終 (30ウ)

「奥書」

古今奇観 痰催斎先生 五冊出来

小説精言 岡白駒 四冊 同 二帙 同先生 五冊 近刻

同 奇言 同先生 四冊 同 粹言 同先生 五冊

開口新語 同先生 壹冊 赤繩奇縁 岡白駒 四冊

(274) 親家 qīng jiā 婚姻した親戚の間で、婿と嫁の親同士の相互の関係を指す。元 関漢卿『四春園』頭折：“他当初有錢時，我便和他做親家；他如今消乏了也，都喚他做叫化李家，我怎生与他做親家？”

(275) 家眷 jiā juàn 妻子等をいう。『三国』第十四回：“十八騎燕將，保着張飛，殺出東門，玄德家眷在府中，都不及顧了。”『老残』第六回：“張二禿子知道勢頭不好，仗着他沒有家眷，‘天明四十五’逃往河南歸德府去找朋友去了。”

(276) 団円 tuán yuán 親族のうち多くは夫妻をいい、久しく別れていた係累と相会うことをいう。『紅樓』第五四回：“蓉兒！和你媳婦坐在一處，倒也団円了。”

翻刻・注解「壳油郎独占花魁」淡齋主人訳

照世盃 同先生 壹冊

文化甲戌中秋 尾陽書坊 風月堂孫助

